

慈恵大学の「今」を伝える法人情報誌

The **JIKEI**

2016 Summer Vol.27



1885(明治18)年、学祖・高木兼寛は看護婦教育所を設立するとともに、看護教師としてM.E.リード女史を招へい。日本で初めて看護教育の門を開いた。この写真中央がM.E.リード女史である。1887(明治20)年2月3日に彼女の帰国に際して、在学生13名とともに撮影した。このうち5名は翌年2月に同教育所の第一回卒業生として巣立っていった。

特集 1 阿部正和先生のご逝去を悼む

特集 2 1枚の写真が残した慈恵とMayo Clinicの絆

Contents

- 巻頭言** 1p 阿部正和先生と医師育成 …………… 理事長 栗原 敏
- 特集1** 2p 阿部正和先生のご逝去を悼む …………… 栗原 敏
- 特集2** 8p 1枚の写真が残した慈恵とMayo Clinicの絆 …………… 炭山 和毅
- 特別寄稿** 12p 兼寛先生と宮崎の子どもたち ② …………… 高木兼寛顕彰会 会長 中山 芳教
- 慈恵最前線** 18p 潰瘍性大腸炎の最新治療について …………… 猿田 雅之
- 視点** 20p 高度実践看護師とは …………… 佐藤 正美
- 研究余話** 22p アイスランド噴火とペプチドワクチン …………… 木村 高弘
- 学内めぐり** 23p 「バイオフィルム感染症制圧」を目指して …………… 水之江 義充
- 西新橋再整備報告** 24p 西新橋キャンパス再整備計画について
- 生涯学習** 26p 各種セミナーや研修会への取り組み
- The JIKEI NEWS FLASH** 27p 卒業式/入学式/新任教授紹介/第1261回成医会例会 など
- BULLETIN BOARD** 34p 行事
- 35p 公示
- 38p 学事・慶弔
- 39p 東京慈恵会公報
- 40p 財務報告
- 44p 補助金・助成金
- 45p 学校法人 慈恵大学 行動憲章／行動規範
- 46p 公益通報・研究に関する不正・ハラスメント等相談窓口について
- 47p 創立百三十年記念事業募金 寄付者名簿 ご寄付の御礼とご協力のお願い

■平成28年8月～12月の行事予定

- 8月6日(土)** 午後4時～ 慈恵医大夏季セミナー 会場 大学1号館講堂(3階)
- 8月12日(金)** 午後1時30分～ 医学科第1回オープンキャンパス 会場 中央講堂
- 8月13日(土)** 午後1時30分～ 医学科第2回オープンキャンパス 会場 中央講堂
- 9月24日(土)** 午後1時30分～ 医学科第3回オープンキャンパス 会場 中央講堂
- 10月1日(土)** 午後3時30分～ 同窓会支部長会議・学術連絡会議 会場 中央講堂
- 10月6日(木)・7日(金)** 第133回成医会総会
- 10月8日(土)** 午後3時30分～ 学祖高木兼寛先生墓参及び懇談会 中央棟前集合
- 10月15日(土)** 高木兼寛先生記念日
- 10月22日(土)** 午後6時～ 卒後50周年記念大学招待懇親会 (昭和41年卒) 会場 ハレスホテル
- 10月28日(金)** 午後1時～ 第112回解剖諸霊位供養法会 会場 増上寺
- 11月5日(土)** 午後3時～ 父兄会秋期総会 会場 大学1号館講堂(3階) 懇親会 会場 4階学生ホール
- 12月28日(水)** 午後6時～ 教授・准教授懇談会 会場 ハレスホテル

【巻頭言】



理事長 栗原 敏

阿部正和先生と医師育成

阿部正和先生(学校法人慈恵大学顧問、元理事長、東京慈恵会医科大学第8代学長、名誉教授)は、病氣ご療養中のところ、平成28年2月26日、東京慈恵会医科大学附属病院で97歳のご生涯を閉じられました。

先生は昭和17年に東京慈恵会医科大学をご卒業になられた後、海軍軍医を経て、昭和20年に国立東京第二病院(現、国立病院機構東京医療センター)に入れ、西野忠次郎先生のもとで内科学の厳しい修練を受けました。

先生は医学博士の学位を取得したいと考え、昭和24年、杉本良一教授が主宰する東京慈恵会医科大学第二生理学教室(現、細胞生理学講座)で、生理学研究に従事されることになりました。臨床医学と基礎医学の橋渡しができる生理学者を目指していましたが、昭和39年2月、樋口一成第6代学長から、青戸病院内科の教授に就任するように命じられ、生理学者の道を断念し、内科学教授としての道を歩まれることになったのであります。

“基礎のない臨床医学は砂上の楼閣である”、“大学病院に在籍するものは研究の推進に努めるべきである”、という先生のお言葉は、内科医師、生理学者、そして内科学教授として活躍されたご経験に基づくものと理解できます。

昭和57年12月、先生は東京慈恵会医科大学第8代学長に就任されました。良医を育成することに注力され、“医学教育改善に関する調査研究協力者会議・最終まとめ(文部省、昭和62年9月7日)”を主査として刊行されました。この答申には医学教育の問題点と、改善の基本的な考え方が整理されています。私が学長に就任した時(平成13年1月)、“これは私が力を入れてまとめたもので、参考にしたい”と言って、この最終まとめを先生から頂きました。

その折に、“臨床医学を真剣に考えて欲しい”と言われた先生のお言葉を思い出します。

先生は全国に先駆けて、家庭医実習を慈恵医大の臨床実習に採り入れました。“実地医家のための会”の協力を得て、地域で患者さんを診ることを学生に体験させようと考えられたもので、良医を育成するという先生のお考えからです。また、卒後の臨床研修は、医師としての基本的診療能力を涵養してから、各診療科で研鑽することが望ましいと考えられ、慈恵ではスーパーローテーション方式が採用され、臨床研修が必修化される前から実施されました。基本を身につけてから専門を学ぶという先生のお考えが貫かれています。先生は生涯、医師育成に尽くされたのであります。

先生は“医はサイエンスに支えられたアートである”という言葉を残されています。アートには医の心が含まれていて、単なる医術ではなく人を思いやる心、人間愛こそ医に最も大切なことであることを強調されました。これをどのようにして教育するのか、先生が我々に残された最も大きな課題です。

学祖・高木兼寛先生は、“神は愛なり、神に代わりて愛を与える者、それすなわち医なり”という言葉を残されおり、阿部先生も、晩年、“医学と宗教は切り離して考えることができないという思いに至った”と、自分史、“回想・歩いてきた道”に書かれています。先生は、“臨床医学は学と術と道とより成る”と言われましたが、医学・医療に携わるものは、いつの時代でも、医の心である“道”を考え続けなくてはならないと強く思います。

医師の育成に生涯をかけて取り組まれた先生のご安寧を心から祈念いたします。

特集 1

阿部正和先生のご逝去を悼む

学校法人慈恵大学
理事長 栗原 敏

阿部正和先生(学校法人慈恵大学顧問、元理事長、東京慈恵会医科大学第8代学長、名誉教授)は、病氣ご療養中のところ、平成28年2月26日、本学附属病院(本院)で97歳2か月のご生涯を閉じられました。先生のご逝去に対して心から哀悼の意を表します。

1. 東京慈恵会医科大学入学前

先生は大正7年12月5日に、阿部義宗・君子様のご次男としてお生まれになりました。ご尊父は青山学院の院長を務められていましたので、東京府立第六中学校二年生の時に青山学院中学部に編入学されました。昭和11年に卒業されると同時に、東京慈恵会医科大学に入学されました。先生の自分史、“回想・歩いてきた道”(平成16年11月)には、補欠で入学が許可されたと書かれています。

2. 東京慈恵会医科大学生として

学生時代の先生は、予科ではテニスに熱中されていましたが、勉学にも熱心で、学業成績はトップでした。本科(学部)に進まれた先生は、生物科学研究会に入り、生理学の助教授であった杉本良一先生のご指導の下に、青森県浅虫の東北大学附属臨海実験研究所で行った、アカザラという貝の心臓に関する実験結果を、岩波の“科学”という学術誌に発表されています。この研究発表によって、先生の研究的態度が芽生えたと言われています。また、新聞部に入部され、“慈大新聞”の編集を手伝われ、

その時のご経験が、その後の執筆活動や、カルテの正確かつ詳細な記載に大きな影響をおよぼしたものと考えられます。

先生は学生時代、テニスの名プレイヤーで、昭和13年の秋の第10回関東学生庭球新進トーナメントに出場し、ダブルスで後のデビスカップ選手となった隈丸次郎選手と太田清選手のペアを破ったことが、先生のご自慢の一つでした。私が阿部正和先生に初めてお目にかかったのは、昭和40年の春、入学と同時に入部したテニス部の新入生歓迎会の時でした。部活動では部員の和が大切であると話されたことを思い出します。新入生の私は阿部先生に親近感とともに凛とした雰囲気を感じたのであります。

3. 内科医師、生理学者として

先生は昭和17年に本学をご卒業後、海軍軍医として巡洋戦艦“榛名”に乗船し医師として活躍されました。昭和20年12月、国立東京第二病院に入れ、内科医師として研鑽されることになりました。慶應義塾大学初代内科学教授であった西野忠次郎先生が院長に就任され、阿部先生は西野先生から内科学の全てを、徹底的に伝授されたと言われています。

ある時、先生は西野先生に、研究を行って医学博士の学位を取りたいと願い出ました。学生時代から親しくご指導いただいていた杉本良一先生が主宰する慈恵医大第二生理学教室で研究したいと考えられたのでした。

西野先生の許可を得て、昭和24年4月から杉本

教授の下で、非常勤講師として生理学の研究を始められました。当時、問題になっていた栄養失調症が研究テーマで、“栄養失調症の臨床生理学的研究”が先生の学位論文となりました。先生は内科医師としてのご経験から、臨床医学と基礎医学の橋渡しができるようになりたいと考えられたのであります。当時の第二生理学教室では、糖代謝、グルカゴンの生理作用の研究に加えて、チセリウスの電気泳動法による血清蛋白質の研究が行われていました。先生は将来、生理学者として活躍したいと考えていましたが、昭和39年2月、樋口一成第6代学長から、青戸病院内科の教授に就任するよう命じられ、生理学者の道を断念して、内科学教授としての道を歩むことになったのであります。



昭和35年4月 日本生理学会総会(杉本良一教授らと)

先生が第二生理学教室で生理学者として過ごされたご経験から、臨床検査医学が臨床には不可欠であると考え、臨床検査を中央検査システムへと発展させ、また、一般医家を対象として平易に臨床検査医学を解説した著書を出版されました。

4. 内科学講座担当教授として

先生を初代教授とする青戸病院内科は、昭和43年に本院に移転し、教室は第三内科学講座と改称され、場所は現在のカルテ庫として使われている建物を使用していました。阿部先生は糖尿病を中心とした内科学講座を目指して後進の育成に努められました。

私は第二生理学教室の学生班として課外に実験をしていました。阿部先生は第二生理学教室(大学本館前棟西)の前を通って、第三内科学講座に

出はiriされていたので、廊下でよくお目にかかりました。ある日、阿部先生が廊下で、“栗原君、生理学をやるのは大いに結構、研究は何をやってもいいが、臨床医学があることを忘れないでね”と言われました。臨床と基礎の橋渡しをする生理学者になりたいと考えていた阿部先生は、臨床医学を考えることができる生理学者を目指してほしいと言われたのであります。“医学に基礎も臨床もない、あるのは医学だけだ”、“基礎のない臨床医学は砂上の楼閣である”、“大学にいる教職員は研究心を持たなくてはならない”という先生のお言葉が思い出されます。

昭和44年には青年医師連合(青医連)の紛争が始まり、本学でも学生がストライキをする寸前まで混乱しました。教員と学生との間で夜を徹して討論が行われたこともあります。先生は本院の副院長として紛争の収拾に奔走され大変ご苦労なさいました。私の恩師である酒井敏夫教授の部屋に来られてよく相談されていたことを思い出します。

昭和50年1月には本院の附属病院長に選任されましたが、諸事情を考え着任を躊躇されていたところ、樋口一成学長から、“早く決断しろ”と督促され、院長に就任され病院の改善に努められました。

先生の講義は明快でした。“大切なことは3つです。”というように講義のポイントを必ず明示され、“阿部先生のトリアス(三徴候)”と噂されていました。臨床実習では学生の手を取って腹部触診法を教えて下さったことを思い出します。全学的に行われた教育に関するシンポジウムでは、“皆さんは教えすぎているのではないでしょうか?”と言われ、教授錯覚に陥っている教員を諭されたことを思い出します。基礎をしっかり身につけてから臨床医学を学ぶという考えは、先生が生理学教室で研究を経験されたことと無関係ではないと思います。

先生は、挨拶の励行、時間厳守、記録をとることを強調されました。先生は手紙や報告書などを受け取ると、その日のうちに返事を書かれていました。これは杉本教授から、“人から手紙や葉書などを頂い

たらずぐに返事を書きなさい”、と言われたことを実践されていたとのこと。また、会議などには必ず5分前に行くということを励行されていました。これは海軍時代の教えのようです。学外の会議で早く着くと、5分前になるまで車の中で待たれていました。先生のカルテはお手本と言われており、整然かつ詳細に記録されていて、私もその写真を見たことがあります。日常のこともこまめに手帳などに記録されており、記憶力は抜群でした。折々の膨大な数の写真もきちんと整理されていたとご家族から伺いました。



昭和49年6月15日 阿部内科創立10周年

5. 東京慈恵会医科大学第8代学長として

阿部先生は昭和57年12月、第8代学長に就任されました。教授時代から医学教育の重要性を説かれており、医学教育の改善に尽くされたのであります。私が学長に就任した直後、“これは私が力を注いだものだ”と言って、“医学教育の改善に関する調査研究協力者会議・最終まとめ”(文部省、昭和62年9月7日)を手渡されました。このとりまとめが今の医学教育改善の基盤であると言っても過言ではありません。その後、慈恵は医学教育の改善に積極的に取り組んで今日に至っているのであります。

また、先生の同級生であった浦田卓先生が、永井友三郎先生らとともに創設に尽力された“実地医家のための会”の設立(昭和38年4月)にも関心を寄せられていました。昭和61年、阿部先生はこの会の協力を得て(代表者:鈴木壯一先生)、家庭医実習を全国に先駆けて慈恵に導入しました。実地医家のための会の先生方の診療所に行って、希望する学生が家庭医を体験することになったのであります。

先生は卒後教育の改善にも努められ、入局を希望する科で臨床研修を行っていたストレート研修を改め、医師としての基本的診療能力を涵養した上で、それぞれの専門科で研鑽することが望ましいと考えられ、医師臨床研修に各科を回るスーパーローテーション方式を導入し、これが現在の臨床研修の先駆けとなりました。基本を修得してから、専門を研鑽するという、先生のお考えが貫かれています。

先生は看護教育にもご尽力なさいました。国立東京第二病院時代から、看護婦さんを対象に、病態生理学の講義をされており、慈恵の第二生理学教室に移られてからは、より一層、生理学者として看護教育に注力なさいました。患者さんの病態をよく理解することが看護に必要だと考えられていたのです。全国の看護専門学校や幹部講習会から依頼が多数あり、講演に追われていたようです。今でも看護関係者に会い、私は慈恵ですという、阿部先生ですねと言われるくらい、阿部先生は看護界で高名なのであります。“医師と看護婦は車の両輪”と言われた、学祖・高木兼寛先生の教えを重んじられていたのでしょう。

昭和61年から医学部入学定員削減策が始まり、本学は平成4年から入学定員を120名から100名に削減しました。6学年で120名の削減になります。阿部先生は、医学部の中に医学科と看護学科を併設することを考え、1学年30名の医学部看護学科を創設することが計画され、平成4年4月、国領キャンパスに医学部看護学科が開設されたのであります。本邦で初めての試みで、看護婦の育成に努められた高木兼寛先生の理念を一步進められました。

先生は慈恵の伝統を活かした外来を考えられました。先生ご自身がテニスの名選手であったことと、本学の生理学教室は日本体力医学会の創設に関係し、多くの運動生理学者を輩出していたことから、スポーツ医学に関心を示され、昭和60年11月、健康医学センターの中にスポーツ外来部を開設し、全国から注目されました。これも、特筆すべきことです。

先生は松田誠教授(現、名誉教授)による、“高木

兼寛の医学”(昭和61年7月)の刊行を支援され、それを契機に“高木兼寛の医学II、III、IV、”が刊行されたのであります。これらの著書をもとに松田誠名誉教授によって、“高木兼寛の医学-東京慈恵会医科大学の源流-”が刊行されました(東京慈恵会医科大学、平成19年12月)。



6. 学長ご退任後

平成4年12月、学長を退任されてからは、理事長、顧問として大所高所から大学を導かれました。平成13年1月、私が学長に選任された時、先生のお部屋を訪ねると、“君はまだ若い、生理学者栗原はどうなるのか”と言われ、戸惑ったことを覚えています。先生から、以下のような学長としての心得を頂きました。良き相談相手を持って、権力を捨てて権威を保て、基礎医学の振興はもとより臨床医学の発展を真剣に考えて欲しい、学長は大学の顔であることを忘れずに慈恵の存在を確たるものにして欲しい、健康は自分自身で管理せよ、という五箇条であります。その後、学長就任式の後に、“今日の君の話を聞いて、教育の重要性を第一に挙げてくれて大変嬉しい、安心した、良い学長になると信じている”というお手紙を頂きました。

先生は晩年、先生ご自身とご家族に関する記録を残そうと考えられ、“回想・歩いてきた道”(平成16年11月)を書かれました。800頁の大著です。慈恵の歴史もよく分かります。先生の“回想・歩いてきた道”には、先生に関する全てのことが網羅されています。生い立ち、大学生活、ご家族のこと、ご自身の体や病歴まで記載されていて、よくここまで書かれたと感服して興味深く読ませていただきました。“阿部正和という人間がいたことを少しでも知って欲しいのだ”

と言われたことを思い出します。しかし、その作業が終わるところから先生は体調の不良を訴えられ、平成21年3月、本院にご入院なさいました。

7. 本院、総合川崎臨港病院、川崎ライフコミュニケーションでの先生

本院では栄養摂取が不十分なのと誤嚥を繰り返していらしたので、担当医師が先生を説得して、平成21年7月に胃瘻を造設しました。“先生如何ですか”とって病室を訪ねると、右手を挙げて笑顔で応えて下さいましたが、“背中が寒くてぞくぞくする、顔がはてる”などの症状を訴えられることが多くなりました。次第に、言語が不明瞭になり、本院では治療法が無くなってきました。平成21年9月のある日、聖路加国際病院の日野原重明先生がお見舞いに来られました。“阿部先生頑張ってください”、と言われ握手を交わされました。日野原先生をお見送りするとき、“阿部先生はしっかり握手されたので、大丈夫ですよ”と私に言われ慈恵を後にされました。

本院での治療効果が上がらない中、門下生の方々が相談して、平成22年5月に元第三内科(阿部内科)で、消化器病学を研鑽された渡辺嘉久先生が病院長を務める総合川崎臨港病院に、転院することになりました。そこで嚥下訓練を受けられ、驚くべきことに普通にお食事ができるまでに回復されたのであります。嚥下力の回復とともに言語が明瞭になり、先生は復活されたのでした。全身状態は改善し、病院の近くにあるライフコミュニケーション川崎という施設にご入居を勧めたところ同意され、平成22年11月に、総合川崎臨港病院を退院して施設に入居されました。先生のご病状を見ていて、超急性期病院と地域病院の役割の違いを認識させられました。また、手を尽くせば患者さんはよくなるということを教えられました。もちろん、渡辺嘉久先生のご配慮によるところが大きかったことは言うまでもありません。

先生は明るいライフコミュニケーション川崎がお気に入りのご様子で、お見舞いに何うと、ジャージ姿で車椅子に背筋を伸ばしてきちんと座って、大学の報告に

耳を傾けて下さいました。臨港病院でもライフコミュニケーション川崎にいらした時にも、私の同級生で阿部先生の教えを受けた足立穰一先生や持尾聰一郎先生が、幾度となく見舞われ励まされたことも、先生のご回復に大きな力となったものと思います。また、もしも先生のお体に何か起こればすぐに、本院にご入院になれるように、門下生であった谷口郁夫教授と相談して万全の体制をとっていたのであります。



平成24年1月1日 ご家族で
平成25年1月14日 (足立穰一先生、栗原、松藤千弥学長と)



平成24年11月23日 日野原重明先生と

平成24年11月23日、橋本信也先生のご案内で、日野原重明先生がライフコミュニケーション川崎にお見舞いに来られました。日野原先生は百寿を迎えられ、ごく親しい方だけでお祝いの会が開かれ、阿部先生もお招きを受けたのですが、ご体調を考え欠席されました。日野原先生は色紙を持ってこられ、「阿部先生は、当日欠席されサインを頂けなかったので、サインをお願いに来ましたよ」と言われ、阿部先生は色紙にしっかりと署名されました。日本の臨床医学の在り方を考えて来られたお二人は、様々な思いを胸にご歓談されたのであります。

阿部内科が開設されて50年を迎え、その記念の会が計画されました。10年以上も皆さんの前に顔を出されなかった先生でしたが、平成26年7月19日の

阿部内科開講50周年記念祝賀会に出席されると言われたのであります。先生は背広姿で東京會館に来られ、会場入り口からお席までは、ステッキを使わずに独歩で歩かれ、万雷の拍手に迎えられ着席されました。先生はその場で立って皆さんに挨拶され出席者は感動しました。先生としては渾身の力を振り絞って出席されたのだと思いました。多くの門下生の方々とご歓談のひと時を過ごされ、無事、施設に帰られ我々は安堵したのであります。



阿部内科開講50周年記念祝賀会にて

その後、先生は時々、肺炎を起こしたり胸痛を訴えられたりして、何度か総合川崎臨港病院に入院されましたが、全体としてお元気でした。私は足立先生の案内で、年2回ほどライフコミュニケーション川崎を訪問していました。

平成27年9月、肺炎で総合川崎臨港病院に入院されましたが、全身状態が改善しないので、渡辺嘉久先生と谷口郁夫教授とで相談し、11月に宇都宮一典教授の糖尿病代謝内分泌内科にご入院になりました。医師団の治療で全身状態は改善し、施設にお帰りになれる段取りをしていました。しかし、平成28年2月20日に誤嚥性肺炎を再発し、喀痰の排出が困難になり、2月26日未明帰らぬ人となってしまいました。

8. 先生とのお別れ

内科医師、海軍軍医、生理学者、内科学講座担当教授、第8代学長、理事長、顧問という、実に多彩な人生を送られ、医学・医療の在り方を常に考え、医学と看護学の教育の改善に努められ、そして啓蒙活動にも全力を尽くされた先生から、実に多くの

ことを学びました。先生を訪ねると、右手を挙げて笑顔で応えて下さり、退室の時には握手をした日々が忘れられません。

先生は亡くなる12年前に遺書を残されていて、大学葬はやらないこと、葬儀は華美にならないこと、死者は生きているものを煩わせないことと書かれていたことを、ご長男の阿部和人様から伺いました。先生のご遺志を尊重して、ご葬儀はご親族と教会関係者を中心に、平成28年3月1日、渋谷の本多記念教会で執り行われ、大学として私が代表で出席いたしました。この日は、先生のご尊父、阿部義宗先生がご逝去なさった日と伺い、偶然に驚きました。高木兼寛先生は、晩年、「神に代わって愛を与えるものこれ医なり」という言葉を残されています。人間愛こそ医の根底にあるものだというこの言葉を、阿部先生は「回想」に引用されていらっしゃいます。阿部先生は晩年、医と宗教との関係を深く考えられ、高木兼寛先生と同じような心境に到達されたのではないかと推察いたします。

平成28年5月7日、大学1号館講堂(3階)で「阿部正和先生を偲ぶ会」が学校法人慈恵大学主催で開催され、ゆかりの方が多数出席されました。宇都宮一典教授(糖尿病・代謝・内分泌内科)(準備委員長)の司会によって、黙祷、松藤千弥学長(実行副委員長)のご経歴紹介、私の別辞、高久史磨日本医学会会長のお別れの言葉、日野原重明学校法人聖路加国際大学名誉理事長のメッセージ(代読、櫻井健司聖路加国際病院顧問、慈恵医大客員教授)、田嶋尚子名誉教授(前糖尿病・代謝・内分泌内科教授)のお別れの言葉、阿部志郎神奈川県立保健福祉大学名誉学長(阿部正和先生の実弟)のご挨拶、実行委員長として私の御礼の挨拶、ご遺族を代表して阿部和人様の御礼のご挨拶がありました。その後、指名献花、一般献花に移り、献花された後、実行委員とご遺族の答礼を受けられた方は、7階の偲ぶ会懇談の会会場に移動して頂きました。先生の記念のお写真、ご著書の展示を見て

頂く中、谷口郁夫教授(専務理事)(実行副委員長)の司会で会が進められ、永野允名誉教授のご発声で献杯し、先生を偲ぶひと時を過ごしました。当日は約550名の方が献花されました。会場に飾られたお写真のように、先生は笑顔で献花された皆様にお別れされたものと思います。懇談の会は高木敬三専務理事(実行副委員長)のご挨拶で閉会しました。



阿部志郎様(阿部正和先生の実弟)のご挨拶

「阿部正和先生を偲ぶ会」は、先生とお別れする一つの区切りですが、阿部正和先生はいつまでも我々の心の中に生き続けていらっしゃることを実感しています。天上の先生のご安寧を心から祈念申し上げます。

9. 叙勲、叙位、受賞

先生のご経歴を参照して頂くと分かりますが、数々のご受賞(章)があります。特に、平成6年には勲二等瑞宝章を受章され、11月24日、大学として東京プリンスホテルで、阿部正和理事長叙勲記念祝賀会が開催されました。先生のご希望でごく親しい方だけの会にしてほしいとのことでしたが、450名の方が出席されました。先生からは、先輩、同僚、後輩の支援が今回の受章につながり、これからはこの受章に恥じないように一日一日を大切に生きていきたいというご挨拶があったことを思い出します。「今日にベストを尽くす」という、西丸和義先生(大正10年本学卒、脈管生理学者)の教えを信条としておられた先生は、人生最後の日までベストを尽くされました。

1枚の写真が残した 慈恵とMayo Clinicの絆



写真1
学祖とWilliam Worrall Mayo先生
前列左がWilliam Worrall Mayo先生、
前列右は高木兼寛先生
文献1より転載



内視鏡科
教授 炭山 和毅

私は2005年から2007年まで、米国Mayo ClinicのDivision of Gastroenterology and Hepatologyに留学していた。当時は、病院1階にある歴史展示コーナーに、学祖とMayo Clinic創設者である晩年のWilliam Worrall Mayo先生が並んで座る写真が展示されていた(写真1)^{*1}。写真は現在、Mayo Clinicの理事会が開かれる会議室の1番前に掲げられている。また、Mayo Clinicで最も歴史ある建物の一つで、国の文化財にも指定されているPlummerビルディング内には、歴史資料室があり、その入口左側の壁には、学祖の長男であり二代目学長の高木喜寛先生のポートレートが

掲げられている。母校とMayo Clinicの間に創立当初、何らかの関係があったことに驚いた私は、写真が撮影された経緯を何度か資料館の学術員に尋ねたが、いつも適当にはぐらかされ、そうこうするうちに2年間の留学期間が過ぎてしまった。

Mayo家のクリニックから世界のMayo Clinicに

Mayo Clinicは歴代大統領が信頼を寄せる米国屈指の病院であり、世界中から訪れる患者数は年間130万に上る。いまでは、64,000人が働く巨大な医療システムへと成長したが、端緒は、その名が示す通り、英国移民の医師であったWW Mayo先

生が、息子のCharles HとWilliam J先生と共に始めた家族経営のクリニックにある。Mayo Clinic本部のあるミネソタ州、ロチェスターは、現在でも人口11万人の小さな町で(うち33,500名がMayo Clinicの職員)、トウモロコシ畑に囲まれた辺境の地にあり、冬場は極寒で零下30度を下回ることもすらある。WW Mayo先生は、南北戦争の只中、1863年に、家族とともに北軍の軍医としてロチェスターに赴任された。1863年は、日本では文久3年、薩英戦争が勃発した幕末で、米国ではエブラハム・リンカーンが奴隷解放宣言を發布し、「人民の、人民による、人民のための政治」と訳されたゲティスバーグ演説を行った年にあたる。その後、1883年、ロチェスターの街を藤田スケールF5の巨大竜巻が襲い、市街地が完全に破壊された。結果、37名が亡くなり、負傷者は数千名に及んだ。ロチェスターに今も存在する聖フランシス修道院の修道女たちは、被災者を救うためにWW Mayo先生と共に立ち上がり、Mayo Clinicを設立した。息子のCHとWJ Mayo先生は、それぞれノースウェスタン大学とミシガン大学を卒業すると、すぐに父親を手伝うようになり、極めて優れた外科医へと成長された。彼らは、数々の先進的手術に取り組み、1904年には年間3,000例以上の手術がMayo Clinicにおいて実施されたと記録されている。その名声は時を移さず北米全土に広がり、多くの医師がMayo Clinicへ見学に訪れるようになった。1889年に設立されたSt. Mary's Hospitalの手術室には、ほどなくして手術台を取り

囲むように見学者のための可動式のスタンドが設置された。1906年6月7日には、Mayo Clinicを訪れた6名の医師達によって、The Mayo Surgeons Club (The Mayo Graduate School of Medicine、および、The Mayo Alumni Associationの前身)が発足した。The Mayo Surgeons Clubの歴代メンバーには、1872年にドイツ外科学会を設立し、トレンデレンブルグ兆候の由来ともなったFriedrich Trendelenburgや1912年にノーベル医学生理学賞を受賞したフランスのAlexis Carrelが名を連ねている。「Mayoの医師たち」として日本語に翻訳されているClapesattleの「The Doctors Mayo」によれば^{*2}、The Mayo Surgeons Club発足当初のメンバーの中に、学祖の名前がある。留学中に「The Doctors Mayo」を読み、この事実を知った後も、学祖がなぜMayo Clinicを訪れることになったのか、いつどこでその写真が撮影されたのかは私にとって謎のままであった。

学祖のMayo Clinic訪問までの軌跡

医学が専門であるMayo ClinicのJames S Newman氏は、かねてよりWW Mayo先生が謎のアジア人男性と共に座る写真の背景に興味を持っており、本学教員・医師人事室の星野氏がMayo Clinicを訪問した際、学祖の話聞き、すぐに本学を訪れることになった。その際、私は、大学の厚意により慈恵医大に在籍するMayo Alumniの一人としてNewman氏と面会し、慈恵医大保管の資料に当



写真2
高木喜寛先生と
William James Mayo先生
左から高木喜寛先生、長与又郎先生、
William James Mayo先生、
藤浪鑑先生、三浦謹之助先生、
ロックフェラー財団のAllan Gregg氏、
秦佐八郎先生
文献1より転載

たるため資料室を訪れた。帰国後8年目にして、ついに千載一遇の機会が訪れたのである。しかし、残念ながら、展示の資料からは学祖のMayo Clinic訪問の軌跡を探ることはできなかった。我々があきらめかけたその時、学術情報センターの栗山氏が保管庫から学祖の手書きの外遊日記^{*3}を取り出し、Mayo Clinic訪問時の記載があることを我々に告げた。日記によれば、学祖は、日本が日露戦争に勝利した1905年の年の瀬、12月27日に、ニューヨーク、コロンビア大学からの招聘により、日本帝国軍隊の日露戦線における軍事衛生についての講義をするため、横浜から海路米国へと旅立たれた。ホノルルを経て、サンフランシスコに到着した後、全米各地で講演を行なわれている。驚くことに、ワシントンDCではセオドア・ルーズベルト大統領にも面謁されたと記録されている。さらに、ニューヨークから大西洋を超え、ロンドンに渡り、パリ、ストラスブルグ、バーゼル、ベルン、ベニス、ブタペストなどヨーロッパ8カ国を視察された。1906年4月25日には、またロンドンに戻り、母校St. Thomas病院において、5月7日、9日、11日の三日間に渡る「日本海陸軍人の健康管理」と題された講演を行われている。その内容の詳細は、ランセット誌に掲載されており、松田 誠先生の翻訳によって多くの同門がご存知ではないかと思う^{*4}。そして、再度米国に渡った学祖は、WJ Mayo先生が会長のもとボストンで開催された米国医学会総会に出席した後、コロンビア大学の入学式において学位を授与され、渡米の目的であった講演を終えられた。

しかし、そのまま帰国とはならず、一旦、カナダへと渡り、トロントを経てから五大湖を超え、ついにMayo Clinicを訪問されている。日記によれば、The Mayo Surgeons Clubが発足してわずか11日目の1906年の6月19日から、同月23日までの滞在であった。学祖は、そこで脚気についての講演を行い、その貢献が讃えられ、The Mayo Surgeons Clubの終身名誉会員を授与されている。The Mayo Surgeons Clubの一員であった、エジンバラ大学のAlexis Thompson先生が主催した歓迎会には、Mayo家の一同が参加されたようである。外遊日記には、学祖が、その後バンフに向かい、カナディアンロッキーの美しさに感激された様子や、バンクーバーでネイティブアメリカンの保護地区を訪れたエピソードも綴られている。二つの大洋の往復と、開通して間もない大陸横断鉄道(1869年開通、ミネソタ州に貨物専用として開通したのは1893年)を乗り継いだ外遊は、7ヶ月にも及んだ。その行程中、前述のコロンビア大学に加え、フィラデルフィア大学、英ダラム大学からも学位が授与されている。無線通話やラジオ放送が開発されたのは、学祖が帰国した後の1906年12月のことであり、当時、この外遊が、先の読めない、大変過酷な冒険であったことは想像に容易である。実際、学祖はブタペストを訪問する際、扁桃腺炎を患い、ウィーンでは4日間の静養を余儀なくされている。

WW. Mayo先生の慈恵訪問、日米間の壁を超えた友情

学祖のMayo Clinic訪問の翌年である1907年、

当時88歳であったWW Mayo先生は、学祖のMayo Clinic訪問に対する返礼として日本を訪れた。その時の様子は、成医会月報第303号に記載があり、学祖はWW Mayo先生を上野精養軒に招待し晩餐会を開催されたようである。Mayo先生のご令嬢が着物を着ているのを見ると、Mayo Clinicに残っている写真は、この訪問の際に日本で撮影されたものであろう。WW Mayo先生は、その後、横浜や神戸にも足を伸ばし2ヶ月間に渡り日本に滞在された。氏は、帰国後、地元紙であるOlmsted County Democrat紙上において、日本訪問を不思議の国を訪れたようであったと語っている。

高木家とMayo家の親交は、息子の代になっても引き継がれた。喜寛先生は、1923年、関東大震災(9月1日)が起きる直前の4月28日から5月1日まで、ロックフェラー財団の招きによって東京帝国大学の長与又郎と三浦謹之助、京都帝国大学の藤浪鑑、慶応義塾大学の秦佐八郎と共にMayo Clinicを訪れている。写真2は、喜寛先生をはじめとする日本人医師団がWJ Mayo先生と共に、当時のMayo Clinicのメインビルディングの前で撮影された集合写真である(残念ながら、この建物は1986年に壊されている)。米国では、学祖が渡米した1900年代初頭から日本人移民が急増し、黄禍論の嵐が吹き荒れるようになっていた。喜寛先生がMayo Clinicを訪問した翌年の1924年には、米国で排日移民法が制定されている。そのような環境の中、WJ Mayo先生は、喜寛先生をはじめとする

日本人医師団の歓迎会で、以下のような挨拶を述べられた。私の稚拙な翻訳を加えることは避けたいので、原文のまま引用させていただく。

…We meet not as Japanese and Americans but as members of a learned profession whose lives are given to the prevention of sickness, to the relief of human ills, and to these researches which will lessen human misery in the future. …

Mayo Clinic保管の資料によれば、喜寛先生とWJ Mayo先生との書簡による交流は少なくとも1932年まで続いていた。

学祖とWW Mayo先生が命がけで深めた親交は、日米両国の政治的緊張感が高まる中、喜寛先生とWJ Mayo先生との間に着実に伝えられた。しかし、皮肉なことに、日米は戦争へと突入し、両施設は自国の軍隊を救護するために多大な貢献をすることになる。1枚の写真によって、二つの母校の間にあった深い絆を知り得た今、国家間の障壁をも乗り越えた創立者達の誠意と信念を後世に伝えてほしいと切に願っている。

参考文献

- ※1 Sorita A, Ziemer R, Hoshino Y, Sumiyama K, Newman JS. Mayo Clinic Proceedings 2016; 91(1): e13-e16.
- ※2 Clapesattle H, ed. The Doctors Mayo. Rochester, MN: Mayo Clinic; 1969
- ※3 高木兼寛外遊日記
- ※4 松田 誠 訳 高木男爵のセント・トーマス病院医学校での特別講演 食事の改善と脚気の予防 慈恵医大誌 100:589-602 1985

特別寄稿

兼寛先生と宮崎の子どもたち 2

前号からのつづきです。

宮崎市高岡町教育の日合



特別大使の報告(高岡中学校体育館にて)

高木兼寛顕彰会 会長 中山 芳教



高木兼寛顕彰会とは

学祖・高木兼寛は1849年9月15日、宮崎県高岡町に生まれました。高岡町では平成11年3月に高木兼寛の偉業を広く知らしめるために高木兼寛顕彰会を立ち上げ、高岡町の教育振興のために高木兼寛の足跡に親しむ活動を展開するとともに、本学との交流を深めてきました。この度、高木兼寛顕彰会の中山芳教会長から高木兼寛顕彰会及び高岡町の学校教育の振興について解説した寄稿をいただきましたので、前号から引き続き2回にわたってご紹介していきます。



慈恵大学を訪問した特別大使

4.「慈恵大派遣特別大使事業」と「穆園先生ふるさとの旅」の経緯と変遷

「慈恵大派遣特別大使事業」(以下特別大使という)は、第1回実施以来、平成27年度までに17回を数えることになります。派遣数を見ますと、小学生62名、中学生62名、教職員47名、事務局21名、計192名となります。兼寛先生のふるさと宮崎の地から平成11年より192名の者が先生を慕って東京慈恵会医科大学を訪問したことになります。17回に及ぶこの事業にも大きな変化を2つ見ることができます。

1つには、平成21年度末で去川小学校が閉校になりました。高岡町域には、高岡小、浦之名小、穆佐小が現存しています。いずれの学校も歴史と伝統文化の豊かな所に存立しています。閉校になった去川小は、旧薩摩街道筋にあり薩摩藩の中でも有数の関所のあった所です。去川の関の御定番役であった二見家も現存しています。近くには、樹齢800年といわれる銀杏の大樹が聳えています。高岡町史によると、岩倉具視は大久保利通・山県有朋を随行させ、勅使として鹿児島に赴き島津久光および西郷隆盛に面謁。とくに西郷へは、御親兵を新たに東京に設け、薩摩置県への準備工作のためであったと記されています。つまり、明治維新の我が国の近代の黎明期に大きな役割を果たした街道でした。いみじくも、我が国の近代医学の先駆者高木兼寛先生が、同じ街道を経て、鹿児島に往復された往還となると深い感慨と感動を覚えます。去川小はそんな歴史の中にありました。

2つには、高岡町の宮崎市への編入合併でした。平成18年1月1日を以て、宮崎市高岡町となりました。合併特例区の満了した平成24年度から小学生の特別大使は廃止され、中学2年生を対象にした市内全域25校を対象に9名派遣されることになりました。高岡町の思いが宮崎市に引き継がれ、発展的に継続されることになり、兼寛先生の出身地からは、毎年参加できる制度が作られています。

平成26年度特別大使として参加した吉留桃香さんは次のように述べています。

「7月24日から25日の2日間、学校の代表として特別大使となり、東京へ研修に行かせていただきました。小学校の頃から兼寛先生について学んできましたが、この研修を通して、より詳しく、そしてわかりやすく兼寛先生の功績や生涯を学ぶことができました。東京慈恵会医科大学では、専務理事の高木先生と学長の松藤先生から、貴重なお話を伺ったり、鑄型乾燥標本を見学したりしました。私は、今回の2日間の研修を終えて、改めて兼寛先生の偉大さを実感することができました。素晴らしい偉業を成し遂げた偉人が私と同じ高岡出身であることをとても誇りに思います。これからも自分のふるさとに誇りを持ち、兼寛先生みたいに学業に励み、自分を信じて夢を叶えたいです。この貴重な体験ができたことに感謝し、今回学んだことを多くの後輩たちに伝えていきたいと思います。」



ふるさとの旅
ホストファミリーと学生
(鵜戸神宮にて)



穆佐小学校の子どもたちによる
学習発表

平成11年4月1日、「高岡町ふるさと教育推進事業」導入以来17年間にわたる穆園教育の成果を見る思いがします。

特別大使慈恵大訪問に相呼応して、医学科・看護学科・看護専門学校各々の学生による高岡町訪問が始まりました。

第1回「穆園先生ふるさとの旅」(以下ふるさとの旅という)は、平成15年10月30日から11月2日まででした。以来、平成27年10月16日から10月18日までの13回、延べ47名の学生が高岡町を訪問したことになります。日程の2日目に、「高岡町教育の日合同穆園学習会」を見学するのが慣例になっています。開会式で紹介を受けたあと代表が挨拶をすることになっています。過去8回目の平成22年は台風のためふるさとの旅は中止となりました。第1回のふるさとの旅では、韓国報恩郡交流10周年記念として来訪中の郡主以下多数の皆さんが同席でした。第2回の見学は栗原学長、岡田総務課長が同席されました。第3回は高木公寛氏(兼寛先生の曾孫)、第5回は文部科学省の相原佑康氏の参加がありました。第6回では会場の天ヶ城体育館のリニューアルによって、高岡中学校になりました。第1回から6回まで各年4名ずつ24名の学生の参加になりました。第7回も学生4名の参加、この年から去川小を除く4校の合同学習会となりました。平成25年度第10回は予算の関係で参加学生を3名に縮小しましたが、第11回以降東京慈恵会医科大学のご配慮により本来の形の4名の参加に戻るようになりました。ふるさとの旅に参加し

た延べ47名の学生の感想に次のようなものがあります。(平成27年度から宮崎大学医学部参加)

「この度は穆園先生ふるさとの旅に参加させていただき、ありがとうございました。私たちの学祖の足跡をたどり、学祖の歴史を深く学ぶとともに、学祖の生まれ育った地のあたたかさに触れることができました。高岡中学校で行われた学習会では、地元の小中学校生による熱意あふれる学習発表、特に学祖の歴史をテーマにした劇を鑑賞し、具体的にかつ印象的に学祖の歴史を学ぶことができました。このような学習会が毎年の恒例行事になっているとお聞きし、学祖の偉大さを改めて感じました。学祖の歴史の学びもですが、何より地域の方々のあたたかさ、この旅を終えて得たものだと感じております。私たちの来訪に、地域全体があたたかい笑顔で迎えてくださり、来てよかったなと感じました。あたたかい人々に囲まれて育った学祖だからこそ、私たち慈恵医大生が日々心得ている「病気を診ずして 病人を診よ」という教訓をお考えになったのだと思います。最後になりましたが、ホストファミリーの家族の方々をはじめ、顕彰会の方々、小中学校の方々、関係者の皆さま、3日間大変お世話になりました。貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございます。顕彰会と地域のさらなるご発展をお祈りいたします。」

ふるさとの旅に参加した学生は、皆異口同音同様の感想を寄せております。正にふるさとの旅は、兼寛先生と慈恵大学の学生との結びつきを強くし、宮崎の子どもたちと兼寛先生の絆をより強くして来たと思います。ちなみに、高岡町教育の日穆園合同学習会のフィナーレは、兼寛先生の和歌の吟詠で幕を閉じます。

茸狩りに いでたつ児等が いさましき
こえきく朝の こちよきかな

合同穆園学習会の見学を終えた学生達が始めに訪問するのは、兼寛先生生誕の地に所在する穆佐小学校です。穆佐小学校は、昭和50年以来、慈恵大学の招待を受けています。平成27年度までに延べ82名の児童が招かれています。引率の教職員も2名ついていますから、大変な人数になります。学祖に対する慈恵大学の絶大なる畏敬の念を痛感します。

穆園先生の歌(児童の作詩作曲)

一、穆佐で生まれた兼寛は
母と約束したんだよ
苦しむ人を救うため
立派な医者になることを
寝る間もおしんで勉強し
母との約束果たしたよ

二、医者になった兼寛は

日本医学の遅れを知ったよ
やがて病気で苦しむ人を
西洋医学で救おうと
かたく誓って船の中
心ははるかイギリスへ

三、留学途中で最愛の母と娘を失ったよ
悲しみいっぱい兼寛は
日本に帰らずこの地に残り
辛いことも乗り越えて
がんばり通し名誉賞

四、学んで帰り兼寛は
脚気で苦しむ人を見たんだよ
なんとかしようとして研究し
ついに原因突きとめた
病気を診ずして 人を診よ
自分の意思を貫いた
穆佐の誇り兼寛は
今や世界のビタミンの父

この歌は、穆佐小の子どもたちが合同穆園学習会のプログラムの中で合唱するのが慣例になっています。

5. 高岡中学校文部省(現文科省)
研究指定校公開

高岡中学校(校長益崎哲明)は平成10年から11



穆佐小学校を訪問された
松藤千弥学長



穆佐小学校で行われた
穆園先生をしのぶ集い

年度にかけて、文部省指定の生徒指導の研究に取り組みました。当時もいじめ、不登校など生徒の問題行動は、学校教育活動の中の大きな課題でした。平成11年11月30日に公開された研究会には、県内外から多数の参観者がありました。日程は、公開授業にはじまり、研究成果の発表、課題別の分科会など2年間の研究成果は大きな反響を呼びました。中でも「高木兼寛の業績における教育的価値」を研究の中心に据えたことが注目を浴びました。生徒指導の観点から次のように提案されました。

(ア)、文化的に恵まれない地で育ちながらも理解ある両親や師の教えのもと、奮起して医師を志しそれを実現させた。このように、苦難を克服し大望を果たした郷土の偉人の存在を知ることにより、生徒が向上心を持って努力し、最後まであきらめずに志望を達成していこうとする生き方を考えることにつながる。

(イ)、英国の進んだ医療を導入し、当時難病とされていた脚気病の研究を行い、反対意見にも耐えて持論を研究しながら治療法を発見し、その撲滅に取り組んだ兼寛の姿勢は、生徒に強い意志を持たせ、自分たちの身近な問題に自発的に取り組んでいこうとする態度を育成することができる。

(ウ)、医学研究を中心とし、限られた身分の人しか治療を受けることができなかった冷たい日本の医療の現状を、貧しい人々のために医療が施されるように変えようと具体的に取り組んでいった兼寛の行動力・業績から、ボランティア精神を学びとらせ、またそれを積極的に実践していく力を身に付けさせること

ができる。

(エ)、数々の業績を残し、世界的に名が知れ渡るほどの人物になり得ても、父母や師を尊敬し感謝の念を持ち続けた兼寛の精神から、生徒に、自分の両親や地域の人々に対して尊敬の気持ちや感謝の気持ちを持つことの大切さを学び取らせることができる。

以上のような項目の内容を学校の教育課程に位置付け、生徒指導の一環として、授業及び穆園集会の中でいかされて来ました。生徒指導の研究として、郷土の先覚者を指導の中心に据えて学ばせる手法は、他に類のないものであり、斬新な発想として高い評価を受けました。

高木兼寛先生について、小学校1年生から学び中学校3年間の集大成として、見事な成果だったと思います。この成果は、宮崎市高岡町教育の日(平成18年から宮崎市)合同穆園学習会での中学生の態度に十分伺うことができます。

6. 教科書に掲載された「高木岬」

平成18年1月、宮崎市との合併により、高岡町としての教育委員会は、その組織を失い、私は宮崎市教育情報研修センターに教育アドバイザーとして勤務することになりました。教職員の研修業務にあたりましたが資料収集の一環として、国土地理院に南極大陸の「高木岬」について問い合わせました。

国土地理院からいただいた南極大陸の地図には明確に「高木岬」が明記されていました。

教科用図書を出版する会社の地図帳には、高木

岬は掲載されていませんでした。その後、出版社に実情を話す機会がありました。勿論慈恵大学関係の印刷物には、南極大陸に高木岬がしっかり記載されていました。市販の地図帳で初めて南極大陸の高木岬を目にしたのは、平成25年5月30日発行「大きな文字の地図帳」(株式会社帝国書院)でした。

平成18年以来、8年の歳月が流れていました。更に画期的な事象が起きました。平成26年4月4日文科省検定済の地図帳に高木岬が掲載されたのです。「楽しく学ぶ 小学生の地図帳4・5・6年」(株式会社帝国書院)であります。ご案内のように教科書は、小・中学校共に4年ごとに改訂されます。どの出版社の教科書を採用するかは、県によって指定された幾つかの地域に各市町村の教育委員会を分け



南極大陸にある高木岬
脚気の予防に世界で初めて成功し、脚気の真の原因であるビタミンの発見にも貢献した兼寛の功績を称え、南極大陸には、「高木岬」と命名された地名があります。

て採択協議を行い決定します。今回、高木岬の掲載された地図帳は宮崎市教育委員会も採用し、高岡町の子どもたちもこれによって学習することになりました。

以上、兼寛先生の遺徳を学び続ける宮崎の子どもの姿を記録的に記述して来ました。

平成10年4月高岡町教育長に就任以来、東京慈恵会医科大学関係者の絶大なご支援のもと子どもたちと学び続けてきましたが、これからも更に努力を惜しまない所存です。東京慈恵会医科大学の益々のご発展を祈って止みません。

会員募集中

募集内容

会員を一般会員と賛助会員に分けて募集しています。

■一般会員

顕彰会の目的に賛同される個人で、事業の企画・運営などに参画可能な方
会費…年間 1,000 円

■賛助会員

顕彰会の目的に賛同される個人または法人で、遠隔地その他の理由で、会合の出席やイベント運営などの事業参画が不可能な方(事業の企画・運営などについてのご意見やご要望は積極的にお願いします)

会費…個人会員 年間 1 口 1,000 円
法人会員 年間 1 口 5,000 円

*会費納入方法につきましては、別途ご連絡します。
*個人会員においては、終身会費制度(2万円)があります。

申込方法

入会ご希望の方は、郵便または FAX で、「高木兼寛顕彰会」までお申し込みください。
宛先 〒880-2222 宮崎市高岡町五町363番地3
高木兼寛顕彰会事務局
TEL・FAX 0985-89-2070

潰瘍性大腸炎の最新治療について



内科学講座 消化器・肝臓内科
教授 猿田 雅之

潰瘍性大腸炎 (Ulcerative Colitis: UC)、クローン病 (Crohn's disease: CD) に代表される炎症性腸疾患 (Inflammatory Bowel Disease: IBD) は、本邦においても患者数が増加し、2014年末にUCは18万人を超え、CDも4万人を超える状況となっている。特に、UCはこの4年間で毎年1万人以上ずつ増加し、患者数ではアメリカに次ぐ世界第2位にまで急増している。現在も患者数は増加し続け歯止めが効いておらず、さらに病因も未だ明らかではない。ただ、欧米では患者の約20%にIBD (UCあるいはCD) の近親者がいることから、遺伝的素因を想定し特異的遺伝子の探索が行われ、いくつかの関連遺伝子が報告されたが、いずれも完全ではなく、また本邦では家族内発症がわずかに約2%であり、単なる遺伝疾患とは異なるものと認識されている。現在で

は、何らかの遺伝的素因に、腸内細菌の関与や自己免疫反応の異常、食生活の変化などが絡み合って発症するものと考えられている。

UCは、主に20歳代で発症し、大腸粘膜にびらんや潰瘍ができ、腹痛や下痢、粘血便を伴う慢性の炎症性疾患である。病変は全周性で直腸から連続的に上行性(口側)に広がる性質をもつのが特徴とされており、一般的には病変の拡がりから「全大腸炎型」、「左側大腸炎型」、「遠位大腸炎型」、「直腸炎型」に分類し、また重症度により「軽症」、「中等症」、「重症」、「激症」に分類して、治療方法を決定している。UCは若年で発症し、慢性に腹痛、血便、下痢、体重減少などを認めるため、生活の質 (Quality of Life: QOL) を著しく低下させる疾患である。現時点で、完治させることができないため、臨床症状を抑えQOLを回復させることが治療目標となっている。一般的にUCの60-70%は軽症であるため、基準薬である5-アミノサリチル酸製剤 (ペンタサ®、アサコール®) やサラゾスルファピリジン (サラゾピリン®) で対処可能で、寛解状態 (臨床症状が消失し内視鏡的にも炎症が消失している状態) に導くことができる。しかし、炎症が抑えきれない場合や、容易に再燃する場合もあり、このような中

等症~重症あるいは劇症に対して副腎皮質ステロイド剤を用いることが多い。同薬剤により80%以上が寛解もしくは部分寛解となるため非常に有効であるが、一方で、寛解維持効果はないこと、漫然と使用すると骨粗鬆症や易感染状態など副作用を引き起こすことを忘れてはならない。

また、ステロイド治療が有効でない場合には、「抵抗例」と「依存例」という2つの可能性を検討する必要があり、「抵抗例」とは適量を使用しても1~2週間以内に改善を認めない場合で、「依存例」は減量に伴い増悪または再燃を認め離脱が困難な場合である。入院でステロイド大量静注療法が効かない症例は「抵抗例」で、その際は漫然と高容量を継続せず、カルシニューリン阻害の免疫調節薬や抗TNF- α 抗体に切り替え、速やかな寛解導入を目指すことが重要である。具体的には、免疫調節薬ではシクロスポリン持続静注療法 (保険適応なし) あるいはタクロリムス (プログラフ®: 2009年保険収載) 内服加療を行う。両薬剤とも高い効果を示し、特に本邦で開発されたタクロリムスは高い寛解導入率を示し手術率低下にも寄与するため、本邦において重症~劇症を中心に頻用されている。しかし、同薬剤は寛解維持効果が乏しく、アザチオプリ

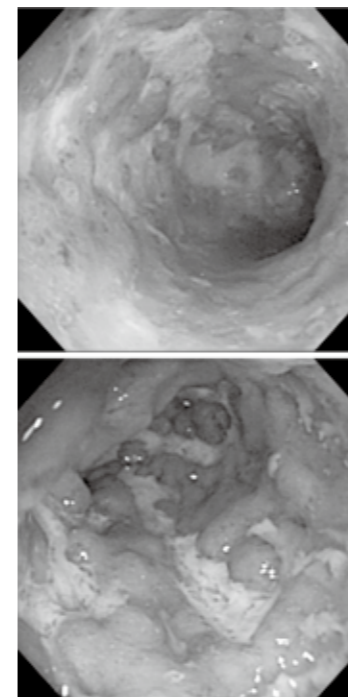
ン製剤など維持に有用な免疫調節薬に引き継ぐなどの工夫が必要である。近年、ステロイド抵抗例に抗TNF- α 抗体インフリキシマブ (レミケード®: 2010年保険収載) やアダリムマブ (ヒュミラ®: 2013年保険収載) が有用であることが数多く報告され、世界的にも頻用されつつある (症例提示: 図)。また、「依存例」には、これまでアザチオプリンなどの免疫調節薬を投与して寛解維持につとめてきたが、同剤に不耐な患者も多く治療に難渋することも多かった。しかし、近年、抗TNF- α 抗体が依存例にも寛解導入・維持が可能なが示され、選択される機会が増加している。同薬剤は、難治例に有効で手術率低下にも貢献し、さらに高い寛解維持効果も示したが、これに加え、

UCの慢性化した病態自体をも制御することでIBD自体の自然史をも劇的に変えることになった。つまり、治療目標が「QOLを改善すること」から、「IBDの病態自体を制御し、腸管粘膜の完全寛解から機能の正常化をはかり、通常の日常生活に戻すこと」に変化してきている。ただ、同薬剤の長期間使用による安全性の確認や、高額な抗体製剤の頻用による医療費高騰などの問題もあり、種々の検証が求められている。具体的には、同薬剤を安全に終了し、寛解をその後も維持することが可能かを検討する多施設共同研究も始められている。

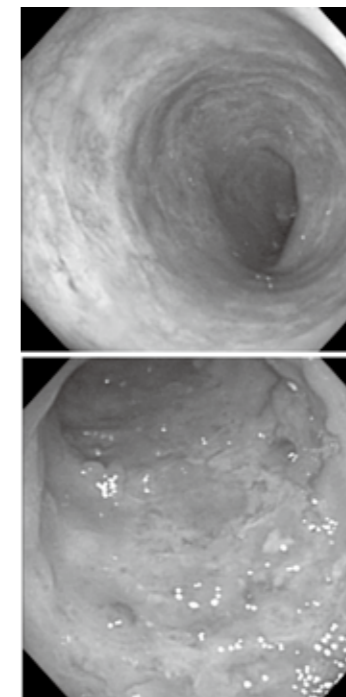
最後に、今後期待される薬剤として、現在世界中で治験が行われている接着因子阻害剤が挙げられる。IBDで

は、慢性炎症を契機に腸管組織の毛細血管内に接着因子が大量に発現し、それに呼応して全身循環するナイーブリンパ球が同接着因子を目指して遊走し強固に接着するリンパ球 (腸型リンパ球) に分化することが知られている。この腸型リンパ球は、接着因子の発現部位にのみ遊走・接着し、組織内に侵入して慢性炎症の持続に寄与することから、同リンパ球の接着を阻害する事が重要で、それを可能にした薬剤が接着因子阻害剤と呼ばれている。既に、腸管内の接着因子を阻害する薬剤として7種類の薬剤が開発され、本邦も (慈恵医大も) 参加している世界同時治験が複数行われており、治験結果が期待されている。

図:潰瘍性大腸炎に対する抗TNF- α 抗体製剤投与



治療前
(ステロイド治療後)



2回目治療の12日後

症例: 60歳代、女性
全大腸炎型の潰瘍性大腸炎

ステロイド治療に全く反応せず、抗TNF- α 抗体製剤 (レミケード®) を導入し、約4週間後 (2回目終了後)、内視鏡を施行した。

治療前は毎日10回前後の血便が治療後には消失し、便回数も1-2回にまで減少し、腹痛も著明に改善した。

高度実践看護師とは

看護学科 教授 佐藤 正美



日本において高度実践看護師(Advanced Practice Nurse: APN)は、1996年に誕生した専門看護師(CNS: Certified Nurse Specialist)のことをさします。専門看護師制度の目的は、「複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師を社会に送り出すことにより、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上をはかること」(日本看護協会HP)で、専門看護師の役割は6つあります(表)。2016年5月現在、11分野^{注1)}で1,678名の専門看護師がいます。日本看護協会が専門看護分野の特定、個人の認定審査・5年ごとの認定更新審査等を行い、日本看護系大学協議会が大学院修士課程における専門看護師教育課程の認定・認定更新を行っています。平成28年4月現在、教育機関数は105大学院288課程です。平成32年度限りで26単位から38単位へ完全

に移行しますが、現在半数の144課程が38単位の教育課程となっています。なお、修了生は誕生しておりませんが、平成27年度より新たに、ナースプラクティショナー教育課程「プライマリケア看護」の1分野で46単位が加わりました。

ではなぜ、高度実践看護師という言葉が出てきたのでしょうか。社会構造の変化や人々の生活の多様化、患者ニーズの多様化などから医療は複雑化しています。諸外国ではAPNがケアを開発し、キュア(医学的な診断や治療に関わる行為)に関して、より踏み込んだ役割をとることで、医療の質が向上し患者等のQOL向上に寄与していることが実証されています。そのことから日本でも、それまでの専門看護師教育をさらに充実させることとしました。平成23(2011)年9月に、日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会により「高度実践看護師制度の確立に向けてーグローバルスタンダードからの提言ー」が出されました。

(表)専門看護師の役割

1. 個人、家族及び集団に対して卓越した看護を実践する。(実践)
2. 看護者を含むケア提供者に対しコンサルテーションを行う。(相談)
3. 必要なケアが円滑に行われるために、保健医療福祉に携わる人々とのコーディネーションを行う。(調整)
4. 個人、家族及び集団の権利を守るために、倫理的な問題や葛藤の解決をはかる。(倫理調整)
5. 看護者に対しケアを向上させるため教育的役割を果たす。(教育)
6. 専門知識及び技術の向上並びに開発をはかるために実践の場における研究活動を行う。(研究)

(公益社団法人日本看護協会 <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cns> より引用)

注1) がん看護、精神看護、地域看護、老人看護、小児看護、母性看護、慢性疾患看護、急性・重症患者看護、感染症看護、家族支援、在宅看護

注2) 救急看護、皮膚・排泄ケア、集中ケア、緩和ケア、がん化学療法看護、がん性疼痛看護、訪問看護、感染管理、糖尿病看護、不妊症看護、新生児集中ケア、透析看護、手術看護、乳がん看護、摂食・嚥下障害看護、小児救急看護、認知症看護、脳卒中リハビリテーション看護、がん放射線療法看護、慢性呼吸器疾患看護、慢性心不全看護

そこでは、高度実践看護師とは、個人と家族集団及び集団に対して、ケア(Care)とキュア(Cure)の融合による高度な看護学の知識、技術を駆使して、治療・療養過程の全般を管理・実践することができる看護師のことで、看護系大学院で修士課程以上の教育を受けることが必要と示されました。

さて一方で似ている制度として「認定看護師制度」と「特定行為に係る看護師の研修制度」があります。認定看護師(CN: Certified Nurse)は1997年に誕生し、21分野^{注2)}15,817名(2016年5月現在)います。専門看護師制度ができた1994年では看護系大学院はまだ7校しかなかったため、看護界の実情を踏まえた制度として検討を重ね、日本看護協会の認定看護師養成課程、または日本看護協会が認めた教育課程で養成することとする認定看護師制度が作られました。より限定された狭い範囲で熟練した技術と知識を必要とする看護領域として、分野が特定されていきました。認定看護師教育課程は6か月で615時間以上です。

「特定行為に係る看護師の研修制度」はチーム医療を推進するため看護師の役割をさらに発揮するために、2014年6月に創設され2015年10月から開始された制度です。21区分38の特定行為があり、指定研修機関で区分を単位として研修を受け、修了すると特定行為研修修了証が交付されます。指定研修機関は1または2以上の特定行為区分に係る特定行為研修を行う学校・病院等で、厚生労働大臣が指定するものです。チーム医療を推進するために平成21年から厚生労働省で開かれた検討会や「チーム医療推進会議」の結果を受けて制度化されました。しかし厚生労働省のホームページにある本制度の趣旨では、「今後の在宅医療等を支えていく看護師を計

画的に養成していくことが、本制度創設の目的」と記されています。これに対して日本看護協会は、2015年3月に本研修制度に対する日本看護協会の今度の活動方針を報道関係者宛にNews Releaseを発表しています。基本的な考え方として、「本制度を活用し、看護師の専門性をさらに発揮し、少子超高齢社会における国民のニーズに積極的に応えていく。」とあり、今後の活動方針では、「本制度の意義は特定行為のみを行うのではなく、看護の関わりの中で特定行為も含めた医療を提供することであり、本研修を修了した看護師が看護の専門性を発揮した活動を展開できるよう研修を推進する。」とあり、本制度を活用した大学院教育の推進を進めると記されています。

これまで述べたように、これからの医療においては、高度実践看護師が重要な役割を担うことは明らかです。本学は現在、がん看護と急性・重症患者看護の二つの高度実践看護師教育課程を持ち、さらに、在宅看護の教育課程を準備中です。「最善最適の医療を提供する」という本学の理念に沿って高度実践看護師教育課程の充実を図っています。

また、より専門性を発揮するために「特定行為に係る看護師の研修制度」の動きにもアンテナを張り、質の高い教育を進めることが責務です。

【参考】

公益社団法人 日本看護協会広報部「特定行為に係る看護師の研修制度」に対する日本看護協会の考え方と今後の活動方針(2015年3月13日): http://www.nurse.or.jp/up_pdf/20150313150606_f.pdf; 2016.5.7 参照

日本学術会議 健康・生活科学委員会看護学分科会 高度実践看護師制度の確立に向けてーグローバルスタンダードからの提言ー 平成23年(2011年)9月29日: <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t135-2.pdf>; 2016.5.7参照

小松浩子(2014): 我が国における高度実践看護師(専門看護師)制度・教育の変遷と課題, 学術の動向, 9号, 54-59.

アイスランド噴火とペプチドワクチン



泌尿器科 講師
木村 高弘

私たち泌尿器科教室が取り組んでいる研究のひとつに、前立腺がんに対するペプチドワクチン免疫療法というテーマがある。この研究は近畿大学と共同で行っているのだが、その発端は今思い返しても貴重な旅がきっかけである。学会などでいろいろな国を旅していると、いろいろな経験をするという話を書かせて頂く。

2010年4月某日、欧州泌尿器科学会が行われるバルセロナ(スペイン)に出発する前に当教室の颯川教授と入った成田空港のカフェのテレビでは、アイスランドの噴火のニュースが流れていたが、その話が自分に関係する事件だと気付いたのは、中継地フランクフルト(ドイツ)に到着した時であった。私のがんきに12時間のフライトを楽しんでいる間に噴火の被害は拡大し、私たちは搭乗便の遅延により予定していたバルセロナ行きのフライトに乗り遅れ、4時間後の同日最終便のキャンセル待ちとなった。この便には私と颯川教授の他に他大学の教授が2名搭乗予定で、4人でキャンセル便の搭乗口に向かうと、なんと満席のため3人しか飛行機に乗れないという。当然3名の教授に席を譲り、翌朝の便を確保して、ひとり空港近くのホテルに泊まった。そして翌早朝空港に向かった私に待っていたのは、火山灰のため全便運休という悲劇であった。

国際ハブ空港における全便運休のパニックぶりはすさまじく、すべての窓口でなにをするにしても長蛇の列であり、誰も復旧の時期はわからないため、何の情報もつかめず、すべての旅行者が途方に暮れていた。怒鳴り合っている客を尻目に、早々にバルセロナ行きをあきらめた私は、いったん落ち着いて帰国を模索することに決めた。空港の混乱でトランクも出てこないため、貴重品とノートパソコン以外はほとんど何も持っていない私は、早速大きなりュックサックと衣料と食料を大量に買い込んで、なんとか確保した

安いホテルに滞在し、情報収集を始めた。まったく何も進展のないまま1週間以上が無為に過ぎたが、その頃バルセロナでは、ひとり残された私を何とか救出しようと、多くの日本人泌尿器科医の先生たちが動いてくれていた。ある朝、同じフランクフルト行きの便に乗っていた宮崎大学の賀本教授から私が滞在しているホテルの部屋に電話があり、懇意の旅行代理店の支援で帰国の道が突然開けた。陸路18時間かけて列車を乗り継ぎローマ(イタリア)まで行き、そこからチュニス(チュニジア)～ドバイ(UAE)～関空～羽田と4便乗り継いで、私の長い長い旅は終わった。助けて頂いた先生達と自分の健康な体に感謝した次第である。

この顛末は学会に参加した多くの日本人泌尿器科医の話題となり、帰国後は多くの先生に声をかけて頂いた。そしてフランクフルトまでの便に同乗し、私の帰国を助けて頂いた恩人の1人である近畿大学植村教授よりペプチドワクチンの共同研究の話を受けたのである。この共同研究は大きな成果を結び、3年後の同じ欧州泌尿器科学会では、「木村君にはあの時の席の借りがあるから」と筆頭演者として発表する機会を頂き、さらにその発表が「がん部門」で第3位の優秀演題に選ばれるという栄えを得たのである。



噴火から3年後の欧州泌尿器科学会での発表は、がん部門第3位の優秀演題に選ばれた。

まさに不思議な縁としか言いようがない。

「バイオフィーム感染症制圧」を目指して

先端医学推進拠点群 バイオフィーム研究センター センター長 水之江 義充 (細菌学講座 教授)



バイオフィーム研究センターは平成27年4月に発足しました。本センターは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「バイオフィーム感染症制圧研究拠点の形成」の支援を受けた研究を推進するため、本学の先端医学推進拠点群の1拠点として設立されたものです。基礎・臨床医学講座・臨床部門・基盤研究施設からの兼任メンバーからなる研究センターで、細菌学講座に本部が設けられています。基盤研究施設(分子細胞生物学)、自然科学、分子生物学、病理学、中央検査部、臨床検査医学、感染制御部、消化器外科学、心臓外科学、整形外科、呼吸器内科学、麻酔科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科学、学外研究機関として東邦大学耳鼻咽喉科学、産業技術総合研究所、東京大学創薬機構、九州大学農学研究大学院など多岐にわたる分野の研究者が参画してバイオフィーム感染症の制圧を目指した研究を推進しています。センターには2つのコアを設け、それを中心にバイオフィーム形成機構の解明とバイオフィーム感染症制圧を目指した医学研究を推進しています(図1)。

バイオフィームとは、細菌が菌体外に分泌する多糖類などのマトリクスと菌の集合体から成る構造物です。細菌が人工医療材料等の表面に付着し、増殖すると、マトリクスに覆われた状態、すなわちバイオフィームを形成します。バイオフィーム内の細菌は薬剤に抵抗性を示し、生体の防御機構からも逃れやすくなるために治療が困難になります。現在、バイオフィーム感染症は外科系診療科をはじめとしたすべての診療科において極めて重要な課題となっていて、根本的な予防法・治療法の開発は急務であります。本センターは基礎と臨床が共同し、臨床検体から分離したバイオフィームの細菌叢を網羅的に解析し、バイオフィーム形成における各細菌の役割と疾患との関連性を解明することにより、バイオフィーム感染症に対する診断法・予防法の開発を目指しています。また、水中で電子顕微鏡観察が可能な大気圧走査電子顕微鏡を用いてバイオフィームを自然に近い状態で観察できる手法を確立しました(写真1)。このことにより、新たなバイオフィーム形成メカニズムの解明が可能になると考えられます。さらにハイスループットスクリーニングシステムを構築しバイオフィーム形成を阻害する物質の探索を行い(写真2)、バイオフィーム感染症治療薬の開発を目指した研究を推し進めています。

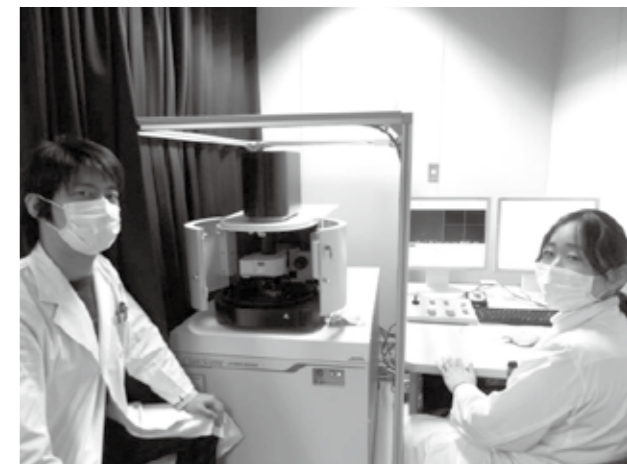


写真1: 大気圧走査電子顕微鏡(ASEM: Atmospheric Scanning Electron Microscope)。ASEMを用いた自然に近い条件下での細菌の形態やバイオフィーム微細構造の観察



写真2: ハイスループットスクリーニングシステム。バイオフィーム形成阻害剤の大規模スクリーニングの実施

バイオフィーム基礎研究コア リーダー: 水之江義充	バイオフィーム感染症研究コア リーダー: 堀誠治・橋本和弘・矢永勝彦
<ul style="list-style-type: none"> 細菌叢解析班 責任者: 水之江義充 分子メカニズム研究班 責任者: 杉本真也 創薬基盤研究・ バクテリオシン利用技術研究班 責任者: 奥田賢一 高分解能観察技術開発班 責任者: 産業技術総合研究所 佐藤主税 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床検体解析班 責任者: 矢永勝彦 臨床応用技術開発班 責任者: 堀野哲也

図1 バイオフィーム研究センターの2つのコア

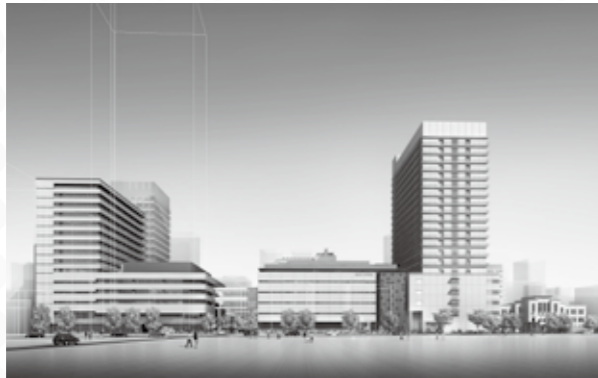
西新橋キャンパス再整備計画について

新外来棟建築を中心とした西新橋キャンパス再整備計画の概要ならびに進捗状況について、ご報告いたします。

1. 新外来棟(仮称)の基本設計について

1) デザイン・コンセプト

新外来棟は、新大学2号館(仮称)、新病院(仮称)との連続性と中央棟との一体性を考慮し、慈恵大学の新しい「顔」として、歴史と先進性の融合、永続的で普遍的なデザイン、誠実さと温かさを感じる色調と素材に配慮しています。



▲ 愛宕下通り側からの全体外観イメージ



▲ 新外来棟西側外観イメージと中央棟

2) 外来機能の基本方針

- 新外来棟の正面玄関は、愛宕下通り側を基本とする
- 患者・家族の利便性と、安全・安心で効率的、効果的な診療体制構築のために「ゆるやかなセンター化」を実現する
- 高度急性期病院の外来として、迅速かつ的確な診断、治療を効率よく提供
 - ・外来ブロック
 - 関連の深い診療科を集約。関連する検査室などを隣接配置。
 - ・外来診察ブース
 - 診療科の独立性を保ちながらフレキシブルな診察ブースを構築。
- 特定機能病院としての役割・機能を発揮できる1日最大3,000人規模を収容できるスペースを目標とする
- 患者及び職員のアメニティ、利便性に配慮した機能・施設整備
- ICTを活用した戦略(情報通信システムの高度化)
 - 以下の項目等を考慮して、医療にICTを導入する



▲ 外来受付廻りイメージ

- 救急患者の情報共有の迅速化
- 教職員の業務効率向上
- 待ち時間対策
- WEB予約
- 災害対策
- データセンターを設置し教育・研究へ活用する

3) 施工会社選定について

工事は、新外来棟建築のほか、大学本館・旧図書館・大学2号館の解体、F棟の耐震補強、外来ABC棟、E棟、中央棟の改修を含みます。今年7月に優先交渉権者を決定し、9月に施工会社と契約する予定となっています。

2. 新大学2号館(仮称)・新病院(仮称)の工事進捗状況

1) 地鎮祭

本年2月2日(火)に大学役員、同窓会役員、工事関係者や行政関係者の出席のもと、愛宕神社の宮司により工事の安全祈願が納められ、新大学2号館・新病院の工事がスタートしました。



▲ 地鎮祭(神事)

2) 上空通路の設置

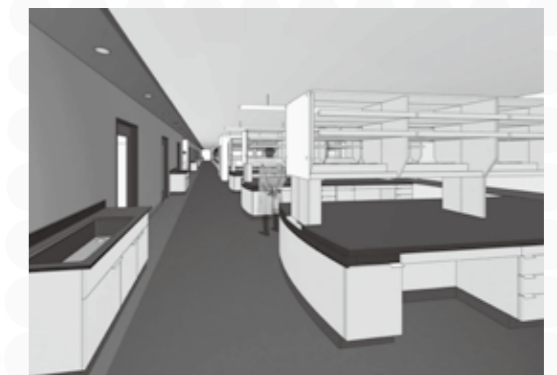
東京都より2月29日(月)付で、新病院と新外来棟の3、4階を接続する上空通路設置許可が下りました。

3) 新大学2号館(仮称)の建物詳細について

- 講堂(1階)
 - 当講堂は約700人を収容可能とし、式典、試験、学会等の大学のイベントやパンデミック・災害発生時に対応できるようになっており、用途に応じてパーティションで3分割が可能です。パンデミック・災害等の緊急時には受付、待合、診察、処置のエリアとして使用し、隣接する会議室は陰圧室として使用可能です。試験、学会等におけるPCの使用を考慮し、ネットワークと電源を床下に収納したOAフロアを採用しています。
- 臨床LAB(4・5階)
 - 大学2号館に点在していた各講座の研究室を集約し、共用の培養室や低温室、フリーザー室等を設けます。
- 臨床医局(6~14階)
 - 基本仕様としてシステム天井、OAフロア、ミニキッチンを設置します。医局員の増減によるレイアウト変更に柔軟に対応できるよう配慮しています。各階には会議室を2~3室設け、カンファレンス等での使用を想定しています。



▲ 新大学2号館・新病院イメージ (左側が上空通路)



▲ 臨床LABイメージ

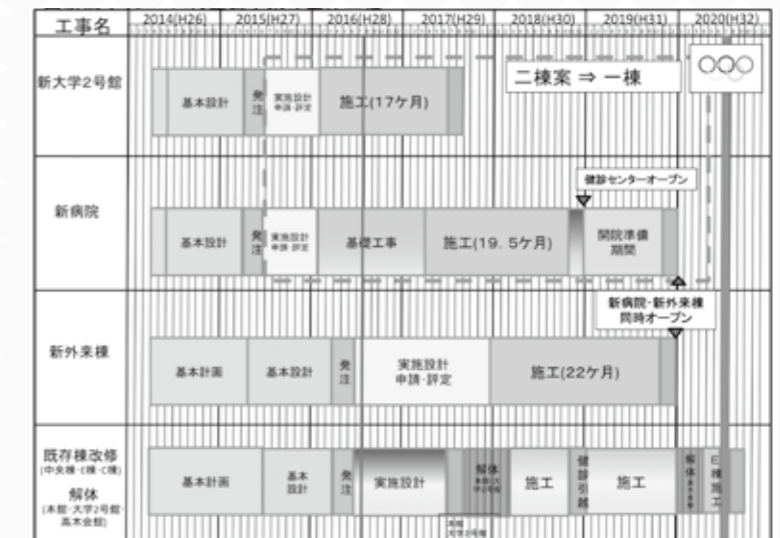
3. 最後に

本号が発行される夏には、新大学2号館の着工後2回目のヒアリングが実施され、各室の内装仕上仕様を確定させる予定です。1年後の竣工に向けた詰めの作業が続くと同時に引越に向けた検討を開始します。

夏以降は、新外来棟建築を中心に既存棟の改修を含めた施工会社が決定し、新外来棟の実施設計が始まることとなります。

引き続き、全教職員や同窓の皆さん、地域の方々の協力を得て、着実に計画を進めてまいります。

西新橋キャンパス再整備事業の全体工程



生涯学習センターをはじめとする各機関では、生涯学習のためにセミナーやフォーラムなどさまざまな取り組みを行っています。時間や会場等の詳細につきましては、各機関へお問い合わせください。

慈恵医大生涯学習センター

●慈恵医大生涯学習セミナー

月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育制度参加証」を交付します。

■月例セミナー／開催日時:第2土曜日(休日を除く)
16:00~18:00(但し、1月、2月、8月、10月、12月を除く)
場所:附属病院(本院)中央棟会議室(8階)

回数	月日	テーマ	演者
第234回	平成28年 7月9日(土)	腰痛・肩こりと脊椎疾患	脳神経外科 谷 諭 教授
第235回	平成28年 9月10日(土)	早期消化管癌に対する 内視鏡診断治療の最前線	内視鏡科 炭山 和毅 教授
第236回	平成28年 11月12日(土)	喘息とCOPDについて	呼吸器内科 中山 勝敏 准教授
第237回	平成29年 3月11日(土)	日常診療に役立つ認知症の 基礎知識	精神神経科 忽滑谷 和孝 准教授

注)内容を変更することもあります。

■夏季セミナー

開催日時:平成28年8月6日(土) 16:00~18:30
 場所:東京慈恵会医科大学 大学1号館講堂(3階)
 テーマ:ここまで変わった痛みの治療
 (主催)慈恵医大生涯学習センター
 (共催)慈恵医大同窓会、慈恵医師会、港区医師会
 (企画)慈恵医大生涯学習委員会

◎お問合せ先:生涯学習センター
 電話:03-3433-1111(大代表)内線2634

東京慈恵会医科大学

【国領キャンパス】

●看護学科主催公開講座

回数	月日	時間・場所	テーマ	演者
第21回	平成28年 9月3日(土)	10:30~12:00 看護学科2階 第2実習室	ハバ・ママ・じいじ・ばあばの エンジョイ育児講座	母性看護学 茅島 江子 教授 細坂 泰子 准教授 中野 美穂 助教

◎お問合せ先:医学部看護学科 学事課
 電話:03-3430-8686(自動オペレーター)内線2775

高師医療センター

●公開セミナー

回数	月日	時間・場所	テーマ	演者
第44回	平成28年 9月10日(土)	14:00~15:30 5階講堂	(仮)膵臓がん ~21世紀に残された難治性癌~	外科 未定
第45回	平成29年 2月18日(土)	14:00~15:30 5階講堂	加齢黄斑変性	眼科 未定

◎お問合せ先:管理課 電話:03-3603-2111(大代表)内線5911

慈恵医師会

●慈恵医師会産業医研修会
 例年6月に開催しています。
 (主催)慈恵医師会 (共催)東京都医師会

●お問合せ先:慈恵医師会 ●
 電話:03-3433-1111(大代表)
 内線2636

附属病院(本院)

●第5回「働く人の健康支援研究会」

回数	月日	時間・場所	テーマ	演者
第5回	平成28年 9月9日(金)	18:30~19:50 中央講堂	職域における 眼科健診の重要性 新しい就労者支援医療 働く人のこころの検査入院 —初年度の事例報告—	眼科 診療医長 中野 匡 精神神経科 診療医員 小高 文聰

※産業医の先生を対象にしています。

◎お問合せ先:患者支援・医療連携センター 電話:03-3433-1111

●平成28年度地域がん診療連携拠点病院事業 市民公開講座

回数	月日	時間・場所	テーマ	演者
第11回	平成28年 9月24日(土)	14:00~16:00(予定) 南講堂	乳がんの 市民公開講座	整形外科 診療副部長 斎藤 充 乳癌・内分泌外科 診療医員 神尾 麻紀子 他1名
第12回	平成29年 2月25日(土)	14:00~16:00(予定) 大学1号館 5階講堂	消化器がん 市民公開講座(仮)	未定

◎お問合せ先:管理課 電話:03-3433-1111(大代表)内線5132

●市民公開講座

定員:50名 参加費:無料 どなたでも参加可能です

月日	時間	場所	テーマ
平成28年 8月6日(土)	13:00~15:00	高木会館1階ロビー	心肺蘇生PUSHコース

※当日は、救急車の乗車体験も実施します。

◎申し込み・問い合わせ:電話:03-3433-1111(大代表)
 管理課内線5131~2、救急医学講座内線3115

第三病院

●公開健康セミナー

回数	月日	時間・場所	テーマ	演者
第77回	平成28年 10月1日(土)	14:00~15:30 第三看護専門学校 6階 大教室	胃・大腸の内視鏡とガンの 早期発見~楽に受けて、 早く見つけて、早く治す!~	内視鏡部 診療部長 池田 圭一

◎お問合せ先:管理課 電話:03-3480-1151(大代表)内線3713

柏病院

●第17回市民公開講座

回数	月日	時間・場所	テーマ	演者
第17回	平成28年 9月10日(土)	14:00~16:30 柏看護専門学校講堂	のどのがんのお話 ~のどの病気を 知っていますか?~	柏病院耳鼻咽喉科診療部長 清野 洋一 銀鈴会 松山 雅則 先生 他3名

◎お問合せ先:業務課 電話:04-7164-1111(大代表)内線2152

The JIKEI NEWS FLASH

学内ニュース

第91回医学科・第21回看護学科卒業式挙行される 第91回医学科・第21回看護学科卒業式

平成28年3月4日(金)午後1時30分から中央講堂に於いて東京慈恵会医科大学医学部第91回医学科・第21回看護学科卒業式が挙行された。卒業生は医学科107名、看護学科40名であった。当日は、好天に恵まれ、会場は多数の教職員、同窓、学生、父兄の参加を得て満席となった。音楽部の管弦楽団が「威風堂々」を演奏する中、松藤学長を先頭に栗原理事長、橋本医学科長、北看護学科長、名誉教授、高橋紀久雄同窓会長、高見澤重隆父兄会長が入場され厳粛に卒業式が開始された。国歌斉唱の後に松藤学長より卒業生一人ひとりに卒業証書(学位記)が授与され、会場から温かい拍手が送られた。続いて成績最優秀者に送られる慈大賞が松藤学長より宮川牧子さん(医学科)と新井萌子さん(看護学科)に授与された。また、同窓会賞が高橋同窓会長より広川恵理沙さん(医学科)と指宿智美さん(看護学科)に、父兄会賞が高見澤父兄会長より海老原史君(医学科)に授与され、更に日本私立看護系大学協会会長賞が、泉詩央理さん(看護学科)に授与された。

橋本医学科長と北看護学科長より平成27年度学事報告が行われた後に、松藤学長より式辞が述べられた。「医学・看護学を深く理解して欲しい、謙虚であることを忘れないで欲しい、予測困難な未来に

備えて欲しい」と医療人としての3つの心構えについて述べられた。その後に栗原理事長より「卒業生の皆さんは無限の可能性を秘めており、例え困難な時を迎えても、必ず乗り越えられるという信念を持って、それぞれの人生航路を力強く歩んで頂きたい」と祝辞が述べられた。会場が感動の渦につつまれる中で、医学科卒業生を代表して宮川牧子さんより「臨床の現場で自分自身の無力さを痛感した時、患者さんから暖かい言葉をかけて頂き、私達がいかに期待されているか肌で感じました。期待に応えられるよう医師として研鑽を積んで参りたい」と決意に満ちた謝辞が述べられた。続いて看護学科卒業生を代表して、新井萌子さんより「東日本大震災より5年が経過し、災害時の医療の重要性が増す中で、様々な健康レベルにある方々に対して、看護職として力になれることを最大限に模索し、医療者として社会への貢献に努めてまいります」と謝辞が述べられた。

続いて、平成27年度に最も充実した活動を行ったクラブに贈られる樋口一成記念杯について学生代表の渡邊こころさんから選考経過と受賞クラブが発表され、運動部門(バスケットボール部<男子部>)と文化部門(音楽部)に記念の樋口杯が授与された。終わりに全員が慈恵の歌「曙満ち来る」を斉唱し、厳かなうちに卒業式は終了した。



第110回医師国家試験・第105回看護師国家試験・第102回保健師国家試験結果発表

医師国家試験が2月6、7、8日の3日間にわたって施行され、結果が3月18日に発表され本学は、110名中108名合格(98.2%)、新卒は107名が受験し、全員が合格(100%)、既卒は3名中1名合格(33.3%)であった。国・公・私立大学の総合順位では、第4位(前年は9位)私立大学だけでは第3位(前年は4位)であった。他の私立大学の状況は自治医科大学(99.1%1位)、東京医科大学(98.5%2位)、順天堂大学医学部(98.2%3位)、日本大学医学部(97.5%5位)、兵庫医科大学(95.2%6位)、東邦大学医学部(94.8%7位)であった。

全国受験者総数は、9,434名、うち合格者は8,630名で、合格率は91.5%(前年は91.2%)であった。また、2月14日に行われた看護師国家試験の結果は3月25日に発表され、看護学科は41名が受験し全員が合格した(合格率100%)。また、2月16日に行われた保健師国家試験の結果は、20人が受験し全員が合格した(合格率100%・全国平均89.8%であった)。一方、看護専門学校は3校合計224名(既卒者1名を含む)が受験し、223名が合格、99.6%の合格率であった(全国平均89.4%)。

■第110回医師国家試験合格状況 ()内は前回の数字

区分	校数	新卒			既卒			合計		
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本学	—	107名 (99)	107名 (98)	100.0% (99.0)	3名 (5)	1名 (3)	33.3% (60.0)	110名 (104)	108名 (101)	98.2% (97.1)
国立	43	4,749名 (4,415)	4,485名 (4,197)	94.4% (95.1)	380名 (387)	217名 (212)	57.1% (54.8)	5,129名 (4,802)	4,702名 (4,409)	91.7% (91.8)
公立	8	771名 (739)	748名 (714)	97.0% (96.6)	39名 ⁽³³⁾	25名 ⁽²⁰⁾	64.1% (60.6)	810名 (772)	773名 (734)	95.4% (95.1)
私立	29	3,071名 (3,031)	2,894名 (2,849)	94.2% (94.0)	306名 (340)	198名 (205)	64.7% (60.3)	3,377名 (3,371)	3,092名 (3,054)	91.6% (90.6)
その他	—	69名 (65)	38名 (38)	55.1% (58.5)	49名 (47)	25名 (23)	51.0% (48.9)	118名 (112)	63名 (61)	53.4% (54.5)
合計	80	8,660名 (8,250)	8,165名 (7,798)	94.3% (94.5)	774名 (807)	465名 (460)	60.1% (57.0)	9,434名 (9,057)	8,630名 (8,258)	91.5% (91.2)

■第105回看護師国家試験合格状況

区分	校数	新卒			既卒			合計		
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
慈恵看護専門学校	103	103	103	100.0%	1	0	0.0%	104	103	99.0%
第三看護専門学校	42	42	42	100.0%	—	—	—	42	42	100.0%
柏看護専門学校	78	78	78	100.0%	—	—	—	78	78	100.0%
医学部看護学科	40	40	40	100.0%	1	1	100.0%	41	41	100.0%
計	263	263	263	100.0%	2	1	50.0%	265	264	99.6%
全 国	56,414	53,547	53,547	94.9%	5,740	2,038	35.5%	62,154	55,585	89.4%

※不合格者 慈恵看護専門学校1名

■第102回保健師国家試験合格状況

学校名	新卒			既卒			合計		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
医学部看護学科	20	20	100.0%	0	0	—	20	20	100.0%
全 国	8,295	7,684	92.6%	504	217	43.1%	8,799	7,901	89.8%

平成28年度 医学部入学式挙行

平成28年度医学部医学科・看護学科入学式

4月とは思えぬ肌寒い気温であったが平成28年4月7日(木)午後2時より西新橋校中央講堂において医学部医学科・医学部看護学科の入学式が厳粛に執り行われた。新入生とご家族、教職員、在校生が参列した満席の会場に、音楽部管弦楽団が奏でる「威風堂々」とともに松藤千弥学長を先頭に、栗原敏理事長、宇都宮一典医学科長、北素子看護学科長、名誉教授、同窓会長、父兄会長が入場し、開会が宣せられた。国歌斉唱のあと、医学科生112名、次いで看護学科生60名の氏名が高らかに読み上げられ、入学生に対して松藤千弥学長が「入学を許可します」と宣言した。次いで医学科入学生を代表して牧弘子さんが、大学病院の高度な技術および幅広い知識を習得し、不安を抱える患者さんにより良い治療法を提供すること、患者さんとの深い対話を通し、生きていく希望を導くことができる良き医師となれるように、常に向上心を持ち東京慈恵会医科大学の学生として日々精進すると宣誓した。

続いて看護学科入学生を代表して千田菜津美さんが、「病気を診ずして、病人を診よ」という建学の精神に基づき、患者を生活の視点から捉える豊かな感性、確かな知識や技術を培い、看護学科の仲間と切磋琢磨するとともに医学科の学生とも連携を深め、コミュニケーション能力の高い看護師となれるよう、日々精進すると宣言した。続いて入学生および在校生に対して松藤千弥学長より告辞が述べられた。次いで栗原敏理事長より、祝辞が述べられた。次いで、入学生を代表して医学科・兵頭壮亮君と看護学科・有田知加さんに記念品として「学祖高木兼寛先生年譜」、「学祖高木兼寛先生の記念フォトフレーム」、「大学のペナント」、「クラッチバック」、そして父兄会の援助を得て準備された「慈恵の歌 曙満ち来るCD」が松藤千弥学長から手渡された。最後に参加者全員が起立して、「曙満ち来る」を斉唱し入学式を終了した。



平成29年度 医学科学生募集要項

オープンキャンパス(開催日程)

医学科(西新橋キャンパス)

- 8/12(金)
中央講堂
- 8/13(土)
中央講堂
- 9/24(土)
中央講堂

※詳しくはホームページにてご確認ください。

募集人員	110名(東京都地域推薦枠入試5名を含む)		
出願期間	平成29年1月5日(木)～平成29年1月26日(木)必着		
一次試験	試験日	平成29年2月5日(日)	
	試験科目	理科(物理、化学、生物の中から2科目選択)/数学/英語	
	試験会場	五反田TOCビル本館	
	合格発表日	平成29年2月14日(火)午後3時	
二次試験	試験日	平成29年2月17日(金)・18日(土)・19日(日)のうちの1日	
	試験科目	面接・小論文	
	試験会場	本学・西新橋キャンパス	
入学手続	第1段階(入学金)	平成29年2月28日(火)午後3時まで	
	締切日	第2段階(手続資料)(授業料)	平成29年3月10日(金)午後3時まで
	納入金返還手続締切日	平成29年3月31日(金)午後3時まで	



平成29年度 看護学科学生募集要項

オープンキャンパス(開催日程)

看護学科(国領キャンパス)

- 7/16(土)
- 7/17(日)
- 11/6(日)
ミニオープンキャンパス

※詳しくはホームページにてご確認ください。

募集人員	60名	
出願期間	平成29年1月5日(木)～平成29年1月27日(金)必着	
一次試験	試験日	平成29年2月10日(金)
	試験科目	理科(化学、生物の中から1科目選択)/国語/数学/英語
	試験会場	本学・国領キャンパス
	合格発表日	平成29年2月12日(日)午後1時
二次試験	試験日	平成29年2月13日(月)
	試験科目	面接
	試験会場	本学・国領キャンパス
入学手続締切日	平成29年2月16日(木)午後1時	
納入金返還手続締切日	平成29年2月23日(木)正午まで	
納入金返還手続締切日	平成29年3月31日(金)午後3時まで	



新任教授紹介

- ①講座名・氏名 内科学講座 消化器・肝臓内科 猿田 雅之
 ②略歴 平成9年 東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業
 平成11年 東京慈恵会医科大学医学部内科学 消化器・肝臓内科医員
 平成14年 東京慈恵会医科大学大学院
 医学研究科臨床系内科学専攻博士課程入学
 平成14年～16年 東北大学大学院医学系研究科医科学専攻病理学講座
 病理診断学分野国内留学
 平成17年 東京慈恵会医科大学大学院
 医学研究科臨床系内科学専攻博士課程修了(医学博士)
 平成17年～19年 米国Cedars-Sinai Medical Center,
 Inflammatory Bowel Disease Center博士研究員
 平成19年10月 東京慈恵会医科大学附属病院
 内科学講座消化器・肝臓内科診療医員
 平成24年4月 東京慈恵会医科大学附属病院
 内科学講座消化器・肝臓内科講師
 平成25年4月 学校法人慈恵大学大学評議員
 平成28年4月 東京慈恵会医科大学内科学講座消化器・肝臓内科
 内科学講座消化器・肝臓内科主任教授
 ③出身地 東京都
 ④趣味・特技 テニス、映画鑑賞、洋楽鑑賞
 ⑤一言メッセージ 潰瘍性大腸炎やクローン病に代表される炎症性腸疾患を専門にしております。同疾患は若年者に多い難病ですが、完治を目指した臨床・研究に邁進して参ります。また、人間的に魅力のある医局員の育成にも努めて参ります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

平成28年4月1日公示



- ①講座名・氏名 救急医学講座 武田 聡
 ②略歴 平成3年3月 山梨医科大学医学部卒業
 平成4年4月 東京慈恵会医科大学研究生(青戸永野内科望月研究室)
 平成6年9月 カナダマニトバ大学生理学教室セントボンフェス病院留学
 平成7年3月 山梨医科大学博士課程修了
 平成8年10月 共立蒲原総合病院循環器内科医長
 平成11年4月 甲府城南病院循環器内科医長
 平成13年5月 東京慈恵会医科大学循環器内科診療医員
 平成18年5月 東京慈恵会医科大学救急医学講座講師
 平成22年7月 ビツバーク大学メディカルセンター留学
 平成23年4月 東京慈恵会医科大学救急医学講座准教授
 平成28年4月 東京慈恵会医科大学救急医学講座主任教授
 ③出身地 山梨県(甲府市)
 ④趣味・特技 キャンプBBQ
 ⑤一言メッセージ 「救急」は医療の原点。今後とも慈恵4病院での救急医療体制のさらなる充実を目指します。また院内救急体制や災害医療体制の充実も推進していきます。皆様からの温かいご指導ご支援ご協力を宜しくお願いいたします。

平成28年4月1日公示



- ①講座名・氏名 看護学科(小児看護学) 高橋 衣
 ②略歴 昭和55年 国立相模原病院附属看護学校卒業(看護師)
 昭和55年 東京大学医学部附属病院看護師
 昭和60年 宮城県立高等看護学校専任教員
 平成6年 三鷹看護専門学校専任教員
 平成14年 立教大学法学部法学科卒業(法学学士)
 平成16年 足利短期大学看護学科(現足利工業大学看護学部)
 小児看護学講師、准教授
 平成22年 群馬医療福祉大学看護学部 小児看護学准教授
 平成23年 東京慈恵会医科大学医学部看護学科・小児看護学准教授
 平成25年 東京女子医科大学看護学部看護研究科博士後期課程満期退学
 平成27年 東京女子医科大学にて博士取得(看護学博士)
 平成28年4月 東京慈恵会医科大学医学部看護学科・小児看護学教授
 ③出身地 岩手県
 ④趣味・特技 料理・映画鑑賞
 ⑤一言メッセージ 小児看護に携わる者として、子どもの権利擁護を実践し社会に貢献できる人材育成のために、学部教育・大学院教育・卒後教育・研究活動に努力してまいりたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

平成28年4月1日公示



倉迫 一朝九州民放クラブ／宮崎・会長による講演 第1261回成医会例会開催

成医会運営委員長 中川 秀己

平成28年2月16日火曜日、第1261回成医会例会が大学1号館講堂(三階)で開催された。今回は倉迫 一朝(かずとも)九州民放クラブ/宮崎・会長による『「病気を診ずして 病人を診よ」と『地霊人傑』、高木兼寛先生に学ぶ日本近代』と題してご講演を頂いた。『地霊人傑』は辞書によると「土地柄が優れ、そこに住む人物も一際優れている」「風土、人物ともにずば抜けて立派」とありますが、倉迫先生は吉田松陰の「地離れて人なく、人を離れて学問無し」という言葉を思い起こされたとのことである。また、『地霊人傑』とは穆園こと高木兼寛先生が掛け軸に書かれた言葉であり、『病気を診ずして 病人を診よ』に次ぐ、座右の銘であると言える。

講師の倉迫先生は1936年旧満州国のお生まれで、戦後、日本に戻られ、熊本大学法文学部に入学された。1960年に宮崎放送に入社され、歴史ドキュメントなどのテレビ番組制作・編集にご活躍され、1996年にご退職された。現在、九州民放クラブ/宮崎・会長に就かれている。先生は歴史、人物に関してのご造詣が深く、宮崎放送時代には高木兼寛先生に関するテレビ番組を制作され、それに関する著書も出版されている。

倉迫先生は宮崎放送に入社後、高木兼寛先生という日本近代医学の発展に尽くされた宮崎出身の偉大な医師がいたことを知り、その足跡をたどるとともに、1週間セント・トーマス病院・医学校を訪問され、高木兼寛先生の御業績を詳しく調査された。それを基にして講演を行って頂いた。

高木兼寛先生は1849年に現在の宮崎県高岡町で生まれ、鹿児島で醫學を学び、戊辰戦争に従軍後、24歳で上京して海軍軍医になり、27歳でセント・トーマス病院・医学校に留学、34歳で帰国後、翌年、成医講習所を設立された。1920年に72歳(数え年)で逝去されている。この間、脚気の予防法を発見し、

ビタミンB1発見の先駆者として世界的な評価を受けたことは良く知られた事実であるが、その間の足跡を詳細にわかりやすくお話しされた。その中で、攘夷と開国、明治に入り、欧米列強と肩を並べるための急速な近代化とともに、医療、医学、看護、病院の近代化そして海軍の成り立ち、当時の日本人の生活スタイルについて触れられた。更に当時の日本とイギリスの社会の仕組み、文化、教育、宗教などの相違を基に高木兼寛先生がイギリスの医療を導入する経緯を示された。

先生はまた『病気を診ずして 病人を診よ』の診るという字は「深く見て申す」という意味であり、自分自身の目、頭脳そして体全体で物事を見て行くことが、現代の世界では欠けて来ているのではないかと指摘された。今回の講演で高木兼寛先生の足跡とその時代背景、歴史を振り返ることにより、足元を固めてしっかりものを見て判断して行くことが我々に求められることであることが実感できた素晴らしいご講演であった。



▲▼講演される倉迫 一朝先生



▲会場の様子



「本学と国立がん研究センターとの包括連携記念講演会について」

本誌25号で既にお知らせしたとおり、本学と国立がん研究センターは医療・教育・研究等の連携・交流に向けて、平成27年4月1日包括協定を締結しました。両機関がどのように連携事業を進めていくか、連携推進協議会で議論を重ねられてきました。さる平成28年2月3日、「大学とナショナルセンターとの新しい連携モデル構築を目指して」をテーマに包括連携記念講演会を開催しました。

開会挨拶のなかで、本学栗原理事長は「それぞれの社会的な役割を踏まえ、連携により機能強化を図り、新しい連携のモデルを構築するのが狙いだ」と包括連携の趣旨について説明、国立がん研究センターの堀田理事長は、「同センターは、がんの診療・研究に特化した施設であるがゆえに、総合力のある大学病院と連携することで弱い分野を補完でき、診療の幅を広げることになると、1+1が2以上になる可能性についてふれ、連携の意義を強調されました。

講演会では同センター中央病院荒井保明院長（本学昭和54年卒）と本学松藤千弥学長がそれぞれの組織の概要と歴史にふれ、連携の意義を説明されました。荒井院長によれば、国立がん研究センターは「がんの制圧」が大命題であり、それ

本学コーディネーター 落合 和徳(大学特命教授)

以外の見方に欠ける面があり、日本が向かっていく高齢化に伴う低生産性社会でのがん診療に必要な柔軟性に乏しい側面がある、との見解を示されました。治癒率と生存期間の延長という物差しだけでいいのか、という疑問も呈されました。本学建学の理念である、「病気を診ずして 病人を診よ」がこれから求められると述べ、両機関の異なる文化が融合することの意義に触れました。

松藤学長は研究重視のがん研究センターと臨床重視の本学の特徴を論文数から比較し、連携が両機関の研究面にとって、有意義なものになる可能性を示されました。具体的には大学院博士課程にがんセンターから推薦され、本学教授会で承認された連携教授を置き、研究指導に直接あたることができるよう、現在準備が進められているとのことでした。

講演会には本学から231名、国立がん研究センターから151名の計382名が参加し、大学1号館3階講堂は満員の盛況でした。講演会の後、場所を4階に移し、懇親会が開催されました。両機関から多くの関係者が参加し、和やかに懇談する機会となりました。今後、両機関連携の実がますます上がることを期待したいと思います。



▲国立がん研究センター 堀田 知光 前理事長



▲国立がん研究センター 荒井 保明 前院長



▲松藤 千弥 学長



▲栗原 敏 理事長

第8回慈恵医大・上智大学ジョイントシンポジウム

総合医科学研究センター センター長 大橋 十也

以上を踏まえ、本学としても再生医療を推進するために上記テーマとした。上智大学より有江先生が臨床研究関連の指針と再生医療関連の法律についての関係を、そして菱山先生より先に述べた再生医療関係の法律に関してご講演頂いた。本学よりは本学発の再生医療関係の新規シーズで既に臨床研究のレベルに達した2つの研究に関して山本先生、本間先生にご講演頂いた。100名以上の参加者があり、本分野への関心の高さが伺われた。

医学系の研究では生命現象を深く研究する基礎研究と伴に、そこから得られた知見を元に医療に役立てる応用研究も重要であることは論を待たない。ただ、ヒトへの応用となると患者さんを対象にした研究は不可欠であり、そこには当然であるが別次元の倫理性が問われる。倫理性を担保するには、規制法律の理解がなければならないわけで、その点でも本学ならびに上智大学との協力体制は重要である。本シンポジウムが本学における再生医療の推進に少しでも役立つとすれば存外の喜びである。

今回は上智大学主催で今年度中にも開催される予定である。

上智大学と本学の包括連携に基づき第8回慈恵医大・上智大学ジョイントシンポジウムが平成28年2月1日本学にて開催された。本シンポジウムは2001年から開催されており2006年までは、ほぼ定期的に開催されていた。その後、しばらく開催されなかったが松藤学長のご意向のもと久しぶりに開催された。

今回のテーマは「再生医療等の研究倫理とその実際」というテーマで倫理的側面を上智大関係の先生より、その実際を本学の研究者より、それぞれ2名の先生が講演を行った(図)。

安倍政権が推進する医療分野の成長戦略の中に、再生医療の推進が挙げられており、再生医療の推進は国策ともいえる。また本学松藤学長も再生医療の推進を本学の研究の一つの柱としている。ただ再生医療など新規性の高い先端医療は、その倫理性が十分に透明性をもって担保される必要がある。そのため「再生医療推進法」や「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」が整備された。また医薬品として承認されるために薬事法も改正され、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(薬機法)」が制定された。

**第8回 慈恵医大・上智大学
ジョイントシンポジウム**

再生医療等の研究倫理とその実際

平成28年2月1日(月) 17時～19時(予定)
東京慈恵会医科大学 大学一号館講堂
司会 大橋十也・岡野J洋尚

一部:倫理的背景と研究の推進(17時～18時)

有江 文栄
(文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室、上智大学生命倫理研究所客員研究員、上智大学研究倫理コンサルテーション担当員)

人を対象とする医学系研究の倫理について
～医学系指針と再生医療を交錯させて～

菱山 豊
(国立研究開発法人日本医療研究開発機構、元上智大学生命倫理研究所客員研究員)

再生医学の推進方策と生命倫理

二部:研究の実際(18時～19時)

山本和央
(東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科、東京女子医科大学先端生命医学研究所)

中耳粘膜再生医療の実現に向けて
～難治性中耳疾患に対する細胞シート移植～

本間 定
(東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター悪性腫瘍治療研究部)

癌の免疫細胞治療の現状

懇親会(19時30分から) 大学一号館4階ホール *どなたでも参加可

当シンポジウムへ二部は、倫理の教育研修のポイントとして認定され、受講日より1年間ポイントが有効となります。

連絡先:総合医科学研究センター 大橋十也(内線2386)

JIKEI BULLETIN BOARD

大学公報のまとめ

行事

BULLETIN BOARD

平成27年11月15日(日)、慈恵看護教育130年記念式典・記念講演、記念祝賀会が行われた。
記念式典 午前10時30分～午前11時 記念講演 午前11時10分～午後0時 記念祝賀会 午後0時30分～午後2時
場所 ホテルオークラ東京

平成28年、全機関同時開催(テレビ会議システム)による新年挨拶交歓会が、1月5日(火)午後4時より大学1号館講堂(3階)において開催された。

平成28年度大学院医学研究科(博士課程)入学試験が、次の通り行われた。
平成28年1月23日(土) 第二次募集
合格者 28名

平成27年度第4回学位記授与式が1月25日(月)午後2時30分より、学長応接室において挙行された。
授与された者 大学院修了者 4名
論文提出者 7名
計 11名

小川 武希教授の退任記念講義が、1月30日(土)午後4時より大学1号館講堂(3階)において行われた。

平成28年度入学試験が、次の通り行われた。
医学科 平成28年2月4日(木) 第一次試験
平成28年2月13日(土)、2月14日(日) 第二次試験
合格者 165名
看護学科 平成28年2月10日(水) 第一次試験
平成28年2月13日(土) 第二次試験
合格者 96名

第91回医学科卒業式、第21回看護学科卒業式が次の通り挙行された。
平成28年3月4日(金) 医学科卒業生 107名
看護学科卒業生 40名

平成27年度 慈恵第三看護専門学校、慈恵柏看護専門学校合同卒業式が次の通り挙行された。
平成28年3月12日(土) 慈恵第三看護専門学校卒業生 42名
慈恵柏看護専門学校卒業生 78名

平成27年度第5回学位記授与式が3月14日(月)午後2時30分より、学長応接室において挙行された。
授与された者 大学院修了者 4名
論文提出者 8名
計 12名

第6回医学研究科看護学専攻修士課程修了式が次の通り挙行された。
平成28年3月22日(火) 修了生 8名

平成27年度第6回学位記授与式が3月30日(水)午後2時30分より、学長応接室において挙行された。
授与された者 大学院修了者 10名
論文提出者 2名
計 12名

平成28年度大学院医学研究科入学式が、次の通り挙行された。
平成28年4月2日(土) 医学系専攻博士課程入学者 48名
看護学専攻修士課程入学者 10名

看護専門学校合同入学式が、次の通り挙行された。
平成28年4月5日(火) 慈恵看護専門学校入学者 94名
第三看護専門学校入学者 51名
柏看護専門学校入学者 84名

平成28年度入学式が、次の通り挙行された。
平成28年4月7日(木) 医学部医学科入学者 112名
医学部看護学科入学者 60名

平成28年度第1回学位記授与式が4月22日(金)午後5時より、学長応接室において挙行された。
授与された者 大学院修了者 1名
論文提出者 0名
計 1名

公示

BULLETIN BOARD

平成27年11月1日

上村 伯人氏に、客員教授を委嘱する

山本 裕氏に、准教授を命ずる

豊田 千純子講師に、准教授を命ずる(特任期間 平成27年11月1日～平成30年3月31日)

谷口 洋講師に、准教授を命ずる(特任期間 平成27年11月1日～平成30年3月31日)

鈴木 茂講師に、准教授を命ずる

平成27年11月2日

平成28年度東京慈恵会医科大学学長候補者及び、附属病院長候補者選挙が平成27年11月11日(水)午後2時より行われた。

平成27年11月27日

東京慈恵会医科大学学長に松藤 千弥教授が選任された。(就任年月日 平成28年4月1日)

附属病院院長に丸毛 啓史教授が選任された。(就任年月日 平成28年4月1日)

平成27年12月1日

小嶋 聡一氏に、客員教授を委嘱する

平成27年12月2日

菅野 美穂子看護補助員(附属病院看護部)は、医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣より表彰された。

平成27年12月24日

学校法人慈恵大学理事が次のとおり選任された。

理事長	栗原 敏				
理事	松藤 千弥	丸毛 啓史	伊藤 洋	中村 敬	東條 克能
	谷口 郁夫	宇都宮 一典	井田 博幸	浅野 晃司	高橋 則子
	加藤 一人	高橋 紀久雄	香川 草平	高木 敬三	前田 新造

(就任年月日 平成28年4月1日)

学校法人慈恵大学評議員が次のとおり選任された。

(寄附行為第24条第1号)
松藤 千弥

(寄附行為第24条第2号)
丸毛 啓史 伊藤 洋 中村 敬 東條 克能

(寄附行為第24条第3号)
谷 諭 浅野 晃司 本郷 賢一 安保 雅博 中野 匡
山田 恭輔 猿田 雅之 岡部 正隆 竹森 重 柳澤 裕之
岡野 孝 北 素子 上間 ゆき子

(寄附行為第24条第4号)
加藤 一人 五味 美春 玉上 淳子 小澤 かおり 植松 美知男
伊藤 敬夫 相馬 陽一 菊地 譲 川久保 孝

(寄附行為第24条第5号)
高橋 紀久雄 香川 草平 須田 健夫 相澤 義則 鎌田 芳夫
穎川 一信 小田 治男 村岡 伸一 赤羽 清彬 大政 良二

(寄附行為第24条第6号)
高木 公寛 徳川 恒孝 梅溪 通明 栗原 敏 高木 敬三

(就任年月日 平成28年4月1日)

阿部 正和氏に顧問を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)

岡村 哲夫氏に顧問を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)

小森 亮氏に顧問を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)

梅澤 祐二氏に常勤顧問を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 佐々木 正峰氏に顧問を委嘱する(就任年月日 平成28年4月1日)
 真野 章氏に顧問を委嘱する(就任年月日 平成28年4月1日)
 高木 敬三氏に専務理事を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 谷口 郁夫氏に専務理事を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 高橋 実貴雄氏に参与を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 秋元 文夫氏に参与を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 伊藤 洋教授に葛飾医療センター院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 中村 敬教授に附属第三病院院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 東條 克能教授に附属柏病院院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 松藤 千弥教授に大学院医学研究科長を兼務とする(就任年月日 平成28年4月1日)
 橋本 和弘教授に副学長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 南沢 享教授に学術情報センター長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 大橋 十也教授に総合医科学研究センター長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 福島 統教授に教育センター長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 宇都宮 一典教授に医学科長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 宇都宮 一典教授に教学委員長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 北 素子教授に看護学科長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)

平成28年1月1日
 朝倉 正准教授に、教授を命ずる
 鈴木 昭広氏に、准教授を命ずる

平成28年1月28日
 谷 諭教授に、附属病院副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 井田 博幸教授に、附属病院副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 浅野 晃司教授に、附属病院副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 小島 博己教授に、附属病院副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 安保 雅博教授に、附属病院副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 小澤 かつお看護部長に、附属病院副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 吉田 和彦教授に、葛飾医療センター副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 児島 章教授に、葛飾医療センター副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 根本 昌実准教授に、葛飾医療センター副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 古田 希教授に、附属第三病院副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 岡本 友好教授に、附属第三病院副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 平本 淳准教授に、附属第三病院副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 秋葉 直志教授に、附属柏病院副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 吉田 博教授に、附属柏病院副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 小倉 誠准教授に、附属柏病院副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 長谷川 譲准教授に、附属柏病院副院長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 岡 尚省教授に、慈恵第三看護専門学校長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)
 岸本 幸一教授に、慈恵柏看護専門学校長を命ずる(就任年月日 平成28年4月1日)

平成28年2月1日
 阪本 要一氏に、客員教授を委嘱する
 立花 利公准教授に、教授を命ずる
 中村 真理子准教授に、教授を命ずる
 川瀬 和美講師に、准教授を命ずる

平成28年3月1日
 酒井 勉講師に、准教授を命ずる
 林 孝彰講師に、准教授を命ずる

平成28年3月17日
 濱 邦久氏に、学校法人慈恵大学監事を委嘱する(就任年月日 平成28年4月1日)
 岡島 進一郎氏に、学校法人慈恵大学監事を委嘱する(就任年月日 平成28年4月1日)

平成28年3月31日
 小川 武希教授は、定年により職を解く
 相澤 良夫教授は、定年により職を解く
 西野 博一教授は、定年により職を解く

平成28年4月1日
 小川 武希氏に、名誉教授の称号を贈る
 亀岡 遵氏に、客員教授を委嘱する
 西野 博一氏に、客員教授を委嘱する
 相澤 良夫氏に、客員教授を委嘱する
 猿田 雅之講師に、内科学講座 消化器・肝臓内科担当教授を命ずる
 武田 聡准教授に、救急医学講座担当教授を命ずる
 鈴木 正章特任教授に、教授を命ずる
 下山 恵美准教授に、教授を命ずる
 今津 博雄准教授に、教授を命ずる
 秋山 眞紀講師に、准教授を命ずる
 池田 圭一講師に、准教授を命ずる
 濱中 喜代看護学科教授に、看護学科客員教授を委嘱する
 高橋 衣看護学科准教授に、看護学科教授を命ずる
 初山 俊彦教授に、教育研究助成委員長を命ずる
 岡部 正隆教授に、カリキュラム委員長を命ずる
 櫻井 尚子看護学科教授に、看護学博士課程設置準備室長を命ずる
 高橋 衣看護学科准教授に、看護学科学学生部長を命ずる
 田中 幸子看護学科教授に、看護学科教学委員長を命ずる
 嶋澤 順子看護学科教授に、看護学科カリキュラム委員長を命ずる
 猿田 雅之氏に、附属病院消化器・肝臓内科診療部長を命ずる
 石橋 由朗氏に、附属病院手術部診療部長を命ずる
 武田 聡氏に、附属病院救急部診療部長を命ずる
 加藤 智弘氏に、総合健診・予防医学センター新橋健診センター診療部長を命ずる
 穂苅 厚史氏に、葛飾医療センター消化器・肝臓内科診療部長を命ずる
 酒井 勉氏に、附属第三病院眼科診療部長を命ずる
 堀野 哲也氏に、附属柏病院感染制御部診療部長を命ずる
 加藤 壮紀氏に、附属柏病院整形外科診療部長を命ずる
 小池 和彦氏に、附属第三病院消化器・肝臓内科診療部長代行を命ずる
 大学に看護学博士課程設置準備室を設置する
 法人事務局企画部を、法人事務局経営企画部に改称する

平成28年4月6日
 故 阿部 正和名誉教授に次の叙位がありました。
 従四位

■大学院修了者

27.12.22	柏木 雄介	塚本 雅美
28.1.13	木曾 真弘	長谷川実奈美
28.1.27	松本 倫典	
28.2.10	若林 秀隆	
28.2.24	中原 貴	
28.3.9	下村 達也	嘉納 麻耶
	伊豆原郁月	佐藤 優
	白井 祥陸	佐藤 洋平
28.3.23	梶村いちげ	伊藤 公博
	千葉 明生	土橋 映仁
	杉村 弥恵	
28.4.13	中島 章雄	田島 彩沙
	若林 太一	
28.4.27	丹羽 新平	伊藤 由紀

■学位論文通過者

27.11.11	加藤 努	松本 晶
27.11.25	後町 武志	入江 是明
27.12.22	谷野千鶴子	
28.1.13	小菅 玄晴	田中 舞
	大久保菜奈子	
28.1.27	横山 洋紀	石黒 晴哉
28.2.10	伊藤 隆介	
28.2.24	鈴木 俊亮	池田 浩平
	小川智一郎	
28.3.9	小田原俊一	
28.3.23	山添 真治	
28.4.13	金井 秀樹	

教職員人事

(慈恵看護専門学校)

平成28年4月1日	昇	級	7等級・事務員	澤本 裕之	6等級・事務員
			4等級・看護教員	大滝 佐織	3等級・看護教員
			4等級・看護教員	徳永 久美子	3等級・看護教員
	任	免	6等級主任・事務員	塩原 邦昭	6等級・事務員
	転	入	4等級・看護教員	福田 久子	葛飾医療センター 看護師
	新	任	看護教員	宇田川 絵美子	

(総合医学研究センター)

平成28年3月31日	退	任	医療教育研究部 主任研究員	小路 美喜子
	新	任	医療教育研究部 主任研究員	興梠 清美

行事

平成27年11月17日(火) 公益社団法人東京慈恵会理事会が開催された。

平成27年12月 5日(土) 慈恵看護専門学校戴帽式が挙行された。 1年生(66期生) 101名

平成28年 3月12日(土) 慈恵看護専門学校卒業式が挙行された。 卒業生 103名

平成28年 3月22日(火) 東京慈恵会理事会、評議員会、定期総会が開催された。

平成28年 4月 5日(火) 慈恵看護専門学校入学式が挙行された。 入学生(67期生) 94名

訃報

佐藤 泰雄 客員教授は、平成27年12月23日逝去されました。
 五十嵐 眞 客員教授は、平成28年1月26日逝去されました。
 須藤 正道 教授(細胞生理学講座 宇宙航空医学研究室)は、平成28年1月31日逝去されました。
 阿部 正和 顧問(元理事長・学長)は、平成28年2月26日逝去されました。
 千野 一郎 杏林大学名誉教授(昭和27年 本学卒)は、平成28年4月5日逝去されました。
 同窓会評議員・港支部長 今村 典嗣先生(昭和49年卒)は、平成28年4月24日逝去されました。

■平成27年度決算の概要

1. はじめに

平成27年度は、既存建物並びに医療機器等の経常的な修繕と更新に加えて、葛飾医療センターの別館建設と西新橋地区再開発の着手に必要な資金を賄える決算を目指して運営されましたが、各機関の経営効率化努力により、基本金組入前当年度収支差額(利益)は予算を上回る結果となりました。

2. 資金収支計算書

施設、設備関係支出は98億円でした。主な内容は、建設仮勘定62億円(内、西新橋再整備支出56億円)、医療器械16億円、建物11億円、教具4億円でした。

前年度繰越金は496億円でしたが次年度繰越金は536億円となり、繰越金は40億円増加しました。

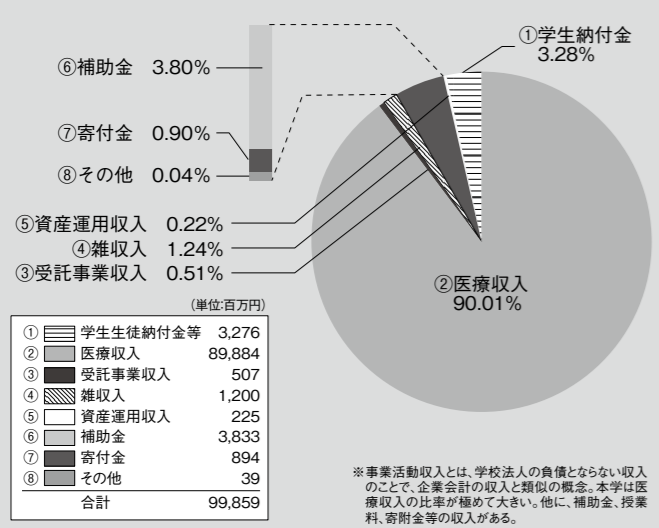
3. 事業活動収支計算書

収入の部は、医療収入の増加により前年度比17億円増加し999億円となりました。

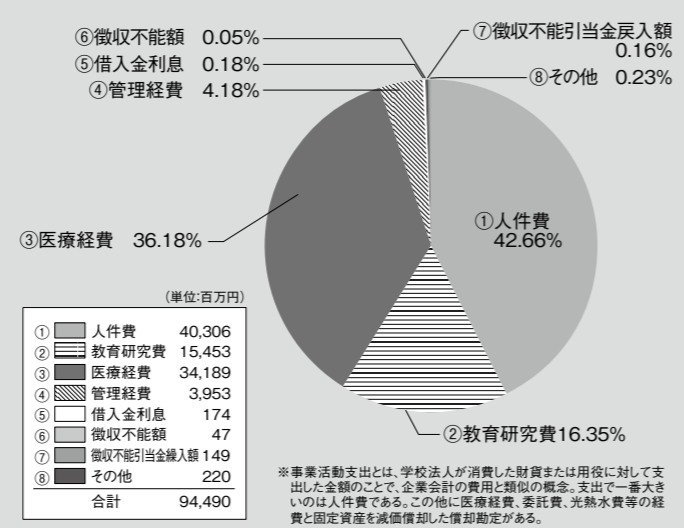
支出の部は、医療経費、減価償却費、人件費は増加したものの、消耗品費、光熱水費が抑えられ、前年度比11億円増加の945億円となりました。

この結果、基本金組入前当年度収支差額(利益)は54億円となり、予算を達成しました。

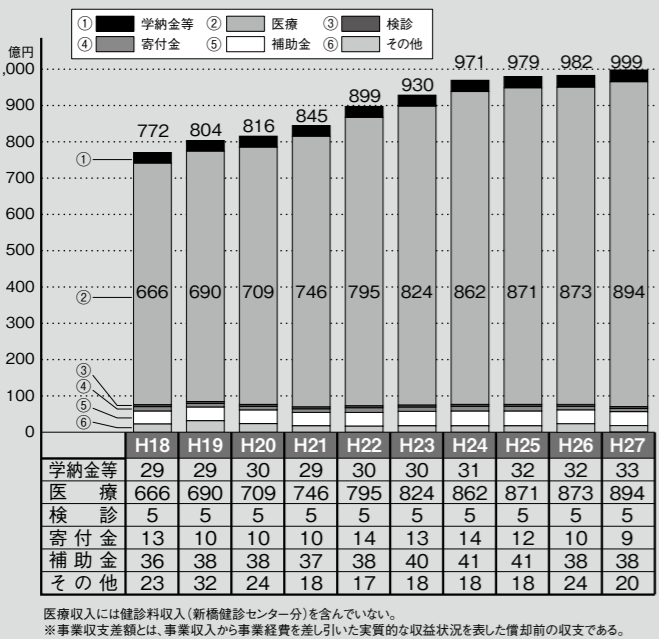
平成27年度 事業活動収入(旧帰属収入)の構成



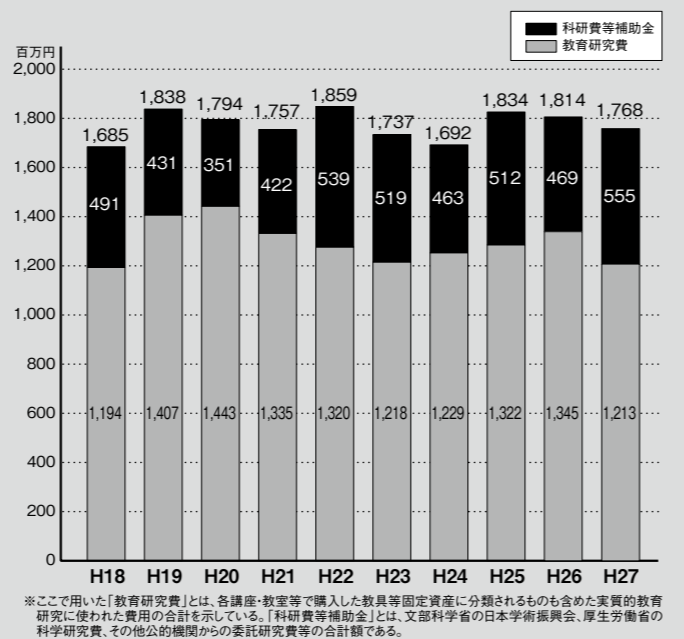
平成27年度 事業活動支出(旧消費支出)の構成



事業活動収入(帰属収入)の推移(H18~H27)



教育研究費の推移(H18~H27)



4. 貸借対照表

純資産の部の増加54億円と長期借入金の増加30億円の合計84億円の内、49億円は現金、預金、有価証券に存置されました。残り35億円とその他の収支6億円が、固定資産(建物、建設仮勘定、医療器械、一般備品)の増加41億円に充当されました。

自己資金の合計は1,389億円で、自己資金比率は72%となりました。

5. 決算開示方法について

- 平成16年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで開示しています。
- 貸借対照表の未収入金は、徴収不能引当金149,073,107円を控除して表記しています。

平成27年度事業活動収支計算書

自平成27年4月1日 至平成28年3月31日

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
教育活動支出		教育活動収入	
人件費	40,306,052,794	学生納付金	3,104,070,000
教育研究経費	49,641,681,341	手数料	171,921,400
教育研究経費	15,452,855,810	寄付金	694,976,315
医療経費	34,188,825,531	經常費等補助金	3,798,376,372
管理経費	3,952,863,833	事業収入	90,391,193,056
徴収不能額	46,553,247	医療収入	89,883,962,267
徴収不能引当金繰入額	149,073,107	受託事業収入	507,230,789
教育活動支出計	94,096,224,322	雑収入	1,200,322,185
教育活動収支差額	5,264,635,006	(徴収不能引当金戻入額)	55,894,131
教育活動外支出		教育活動収入計	99,360,859,328
借入金等利息	173,619,895	教育活動外収入	
教育活動外支出計	173,619,895	その他の受取利息・配当金	224,661,688
經常収支差額	5,315,676,799	教育活動外収入計	224,661,688
特別支出		特別収入	
資産処分差額	32,797,483	資産売却差額	4,973,645
その他の特別支出	186,978,493	その他の特別収入	268,042,418
過年度修正額		施設設備寄付金	175,363,435
特別支出計	219,775,976	施設設備現物寄付	23,643,283
特別収支差額	53,240,087	施設設備補助金	34,535,000
基本金組入前当年度収支差額	5,368,916,886	過年度修正額	34,500,700
		特別収入計	273,016,063
		特別収支差額	
		基本金組入額合計	▲4,845,019,099
		当年度収支差額	523,897,787
		前年度繰越収支差額	▲19,271,675,945
		翌年度繰越収支差額	▲18,747,778,158
事業活動支出計	94,489,620,193	事業活動収入計	99,858,537,079

(単位:円)

平成28年6月文部科学省へ提出

平成27年度資金収支計算書

自平成27年4月1日 至平成28年3月31日

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	40,123,269,754	学生納付金収入	3,104,070,000
教育研究経費支出	44,419,803,283	手数料収入	171,921,400
教育研究経費支出	11,772,048,756	寄付金収入	870,339,750
医療経費支出	32,647,754,527	補助金収入	3,832,911,372
管理経費支出	3,519,161,062	国庫補助金	3,551,513,770
		地方公共団体補助金	279,897,602
		その他の補助金	1,500,000
		事業収入	90,391,193,056
		医療収入	89,883,962,267
		受託事業収入	507,230,789
		受取利息・配当金収入	224,661,688
借入金等支払利息支出	173,619,895	資産売却収入	216,200,000
借入金等返済支出	2,866,800,000	雑収入	1,178,928,754
施設関係支出	7,343,820,698	借入金収入	5,900,000,000
設備関係支出	2,491,731,370	前受金収入	663,540,714
資産運用支出	10,269,214,000	その他の収入	25,673,348,355
その他支出	16,289,524,956	資金収入調整勘定	▲16,545,545,947
資金支出調整勘定	▲15,770,308,266	期末未収入金	▲15,928,060,327
期末未払金	▲15,770,308,266	前期末前受金	▲617,485,620
次年度繰越支払資金	53,562,883,091	前年度繰越支払資金	49,607,950,701
支出の部合計	165,289,519,843	収入の部合計	165,289,519,843

(単位:円)

平成28年6月文部科学省へ提出

平成27年度貸借対照表

平成28年3月31日現在

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	118,269,350,306	108,732,842,623	9,536,507,683
有形固定資産	101,383,867,024	97,532,951,911	3,850,915,113
土地	6,731,341,407	6,942,567,762	▲211,226,355
建物	71,127,901,626	72,262,873,721	▲1,134,972,095
構築物	317,813,879	319,443,595	▲1,629,716
教育研究用機器備品	11,572,589,516	11,452,497,040	120,092,476
管理用機器備品	2,767,452,927	3,155,241,453	▲387,788,526
図書	2,904,628,594	2,865,813,849	38,814,745
車両	13,271,727	19,208,443	▲5,936,716
建設仮勘定	5,925,705,440	492,144,140	5,433,561,300
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908	0
特定資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
退職給付引当資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
その他の固定資産	15,285,483,282	9,599,890,712	5,685,592,570
差入保証金	421,382,460	421,382,460	0
有価証券	13,321,227,220	7,551,298,220	5,769,929,000
長期貸付金	440,382,689	446,416,197	▲6,033,508
ソフトウェア	1,102,490,913	1,180,793,835	▲78,302,922
流動資産	73,464,651,853	74,274,873,799	▲810,221,946
現金預金	53,562,883,091	49,607,950,701	3,954,932,390
未収入金	15,691,804,461	15,648,267,920	43,536,541
貯蔵品	91,324,134	90,916,916	407,218
有価証券	3,999,485,000	8,800,200,000	▲4,800,715,000
仮払金	119,155,167	127,538,262	▲8,383,095
資産の部合計	191,734,002,159	183,007,716,422	8,726,285,737
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	35,188,071,147	32,512,823,744	2,675,247,403
長期借入金	13,448,600,000	10,415,400,000	3,033,200,000
退職給付引当金	18,367,892,761	18,185,109,721	182,783,040
長期未払金	3,371,578,386	3,912,314,023	▲540,735,637
流動負債	17,605,181,544	16,923,060,096	682,121,448
短期借入金	966,800,000	966,800,000	0
未払金	15,759,421,866	15,106,669,427	652,752,439
前受金	659,940,714	613,885,620	46,055,094
預り金	217,822,464	234,445,549	▲16,623,085
保証金	1,196,500	1,259,500	▲63,000
負債の部合計	52,793,252,691	49,435,883,840	3,357,368,851
第1号基本金	150,103,559,476	145,258,540,377	4,845,019,099
第4号基本金	7,584,968,150	7,584,968,150	0
基本金の部合計	157,688,527,626	152,843,508,527	4,845,019,099
翌年度繰越収支差額	18,747,778,158	19,271,675,945	▲523,897,787
繰越収支差額	▲18,747,778,158	▲19,271,675,945	523,897,787
純資産の部合計	138,940,749,468	133,571,832,582	5,368,916,886
負債及び純資産の部合計	191,734,002,159	183,007,716,422	8,726,285,737

(単位:円)

*徴収不能引当金149,073,107円は未収入金から控除

■平成28年度予算について

1. 予算編成方針

予算編成方針は平成27年10月に以下としました。

- (1) 既存の債務返済と、平成28年度に予定される西新橋キャンパス再整備を含めた設備投資計画を、遅滞なく遂行できる予算とする。
- (2) 当年度取支差額目標は44.5億円以上とする。平成27年度の当年度支差額予算比で減益予算となるが、要因は、人件費・委託費等の経費面で大きな増加が見込まれる為。

2. 平成28年度予算概要

- (1) 事業活動収支計算書(旧消費収支計算書に該当する計算書)
 - ・ 予算編成方針の当年度取支差額44.5億円を1.6億円上回る46.1億円の予算を編成した。
 - ・ 収入合計は平成27年度予算比+20.5億円(+2.1%)の1020.6億円。内、医療収入は同比+19.5億円(+2.2%)の915.5億円と大きく伸びる予算とした。
 - ・ 支出合計は、平成27年度予算比+21.2億円(+2.2%)の974.5億円。内、医療経費は同比+10.5億円(+3.1%)の346.5億円とした。

医療収入、医療経費以外では、人件費と委託費の増加が見込まれる。人件費の増加(+6.9億円)は、定期昇給と法定福利費の増加が要因。委託費の増加は、放射線照射機器2台の廃棄処理委託費と医療機器の保守料の増加が要因である。

(2) 資金収支計算書

①施設・設備関係支出

- ・ 施設・設備関係で71億円の支出を計画した。主な内容は、西新橋キャンパス再整備13億円、医療機器16億円、建物18億円、ソフトウェア9億円である。

②資金繰り

- ・ 現在計画中の設備投資は、新大学2号館、新病院、新外来棟、新第三病院、新国領校、新大学本館の6棟を建設する計画で、総費用は医療機器、一般備品を含めた概算で約850億円が見込まれ、完了時期は2025年を予定している。
- ・ 資金繰りは「預金、有価証券取崩し350億円+借入金190億円(内40億円は平成27年度に私学事業団耐震低利融資を調達済)+利益310億円=合計850億円」を見込んでいる。
- ・ 本計画は完成までに10年を要することから、前半の支出については、預金、有価証券の取崩しで賄うことが可能であるが、現在歴史的な低金利状態にあることから借入150億円による調達を優先し、平成28年度に実施する予定である。

平成28年度資金収支予算書

(単位:千円)

自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日

支出の部				収入の部			
科目	平成27年度	平成28年度	対前年比較	科目	平成27年度	平成28年度	対前年比較
人件費支出	40,392,009	40,979,042	587,033	学生生徒納付金収入	3,092,750	3,120,970	28,220
教育研究経費支出	44,765,708	45,941,513	1,175,805	手数料収入	184,803	179,869	▲4,934
教育研究費支出	12,665,218	12,902,850	237,632	寄付金収入	1,107,885	995,649	▲112,236
医療経費支出	32,100,490	33,038,663	938,173	補助金収入	3,889,870	3,839,500	▲50,370
管理経費支出	3,767,447	3,698,149	▲69,298	国庫補助金	3,678,456	3,524,070	▲154,386
				地方公共団体補助金	207,914	312,430	104,516
				その他の補助金	3,500	3,000	▲500
				事業収入	90,580,302	92,703,727	2,123,425
借入金等支払利息支出	180,500	279,500	99,000	医療収入	90,097,940	92,049,229	1,951,289
				受託事業収入	482,362	654,498	172,136
借入金等返済支出	2,866,800	3,246,800	380,000	受取利息・配当金収入	200,000	195,183	▲4,817
施設関係支出	7,056,845	3,707,116	▲3,349,729	雑収入	757,572	829,058	71,486
設備関係支出	2,702,735	3,417,215	714,480	借入金等収入	6,900,000	16,900,000	10,000,000
資産運用支出	8,300,000	3,500,000	▲4,800,000	前受金収入	613,886	663,541	49,655
その他支出	17,090,667	16,289,524	▲801,143	その他の収入	16,250,146	16,320,361	70,215
[予備費]	700,000	680,000	▲20,000				
資金支出調整勘定				資金収入調整勘定	▲10,613,886	▲10,663,541	▲49,655
期末未払金	▲15,149,913	▲15,770,308	▲620,395	期末未収入金	▲10,000,000	▲10,000,000	0
次年度繰越支払資金	49,898,480	53,562,883	3,664,403	前期末前受金	▲613,886	▲663,541	▲49,655
支出の部合計	162,571,278	159,531,434	▲3,039,844	前年度繰越支払資金	49,607,951	49,607,951	0
				収入の部合計	162,571,278	174,692,267	12,120,989

平成28年度事業活動収支予算書

(単位:千円)

自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日

支出の部				収入の部			
科目	平成27年度	平成28年度	対前年比較	科目	平成27年度	平成28年度	対前年比較
教育活動支出				教育活動収入			
人件費	40,545,124	41,239,270	694,146	学生生徒納付金	3,092,750	3,120,970	28,220
教育研究経費	49,925,179	51,310,821	1,385,642	手数料	184,803	179,869	▲4,934
教育研究経費	16,320,918	16,658,456	337,538	寄付金	978,685	839,062	▲139,623
医療経費	33,604,261	34,652,365	1,048,104	経常費等補助金	3,790,204	3,839,500	49,296
管理経費	4,418,238	4,356,303	▲61,935	付随事業収入	90,580,302	92,703,727	2,123,425
				医療収入	90,097,940	92,049,229	1,951,289
徴収不能額等	260,000	260,000	0	受託事業収入	482,362	654,498	172,136
教育活動支出計	95,148,541	97,166,394	2,017,853	雑収入	957,572	1,029,058	71,486
教育活動収支差額	4,435,775	4,545,792	110,017	教育活動収入計	99,584,316	101,712,186	2,127,870
教育活動外支出				教育活動外収入			
借入金等利息	180,500	279,500	99,000	その他の受取利息・配当金	200,000	195,183	▲4,817
教育活動外支出計	180,500	279,500	99,000	教育活動外収入計	200,000	195,183	▲4,817
教育活動外収支差額	19,500	▲84,317	▲103,817				
経常収支差額	4,455,275	4,461,475	6,200				
特別支出				特別収入			
資産処分差額	6,500	5,000	▲1,500	資産売却差額	0	0	0
その他の特別支出	0	0	0	その他の特別収入	228,866	156,587	▲72,279
				施設設備寄付金	129,200	156,587	27,387
特別支出計	6,500	5,000	▲1,500	施設設備補助金	99,666	0	▲99,666
特別収支差額	222,366	151,587	▲70,779	特別収入計	228,866	156,587	▲72,279
基本金組入前当年度収支差額	4,677,641	4,613,062	▲64,579	基本金組入額合計	▲2,710,423	▲3,204,322	▲493,899
				当年度収支差額	1,967,218	1,408,740	▲558,478
				前年度繰越収支差額	▲17,583,686	▲19,271,676	▲1,687,990
				翌年度繰越収支差額	▲15,616,468	▲17,862,936	▲2,246,468

(参考)

事業活動支出計	95,335,541	97,450,894	2,115,353	事業活動収入計	100,013,182	102,063,956	2,050,774
---------	------------	------------	-----------	---------	-------------	-------------	-----------

平成28年度 科学研究費助成事業申請・採択状況一覧

研究種目	28年度			
	新規申請件数	採択件数		内定件数合計
		新規内定件数	継続内定件数	
新学術領域研究	9	0	2	2
基盤研究(S)	1	0	0	0
基盤研究(A)	1	0	0	0
基盤研究(B)	12	2	9	11
基盤研究(C)	123	26	65	91
挑戦的萌芽研究	48	7	11	18
若手研究(A)	4	2	3	5
若手研究(B)	87	15	31	46
合計	285	52	121	173

注) ① 内定件数は平成28年4月1日時点。なお、4月1日時点の転出者は含まれているが、4月1日付転入者は除く。
 ② 応募時期・内定時期の異なる「研究活動スタート支援」「特別研究員奨励費」は除く。

私立大学戦略的研究基盤形成事業(研究期間5年)

採択年度	氏名(所属・職名)	テーマ
平成24年度	水之江義充(細菌学講座・教授)	バイオフィルム感染症制圧研究拠点の形成
平成24年度	柳澤裕之(環境保健医学講座・教授)	疲労の分子機構の解明による健康の維持と増進を目的とする医学研究拠点の形成
平成25年度	加藤総夫(神経科学研究部・教授)	痛みの苦痛緩和を旨とした集学的脳医学研究拠点の形成

学校法人 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

学校法人 慈恵大学 行動規範

- (目的)
 第1条 慈恵大学(以下「大学」という)が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。
- (基本理念)
 第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。
- (法令の遵守)
 第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。
- (人間の尊重)
 第4条 全ての人の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。
- (取引業者との関係)
 第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。
- (反社会的勢力との関係)
 第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。
- (過剰な接待受の禁止)
 第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の受を禁止する。
- (環境保護)
 第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。
- (公私の区別)
 第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。
- (日常の業務処理)
 第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。
 2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
 3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
 4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。
- (虚偽の報告・隠蔽)
 第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。
- (教育・指導)
 第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。
- (告発)
 第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口にて提案することができる。
 2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。
- (監査・報告)
 第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。
- (違反の処理)
 第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。
- 附 則
 1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。
 2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

公益通報・研究に関する不正・ハラスメント等相談窓口について

BULLETIN BOARD

本学では「法令や規則の違反行為ならびに倫理違反行為」「公的研究補助金等の不正」「ハラスメント行為」を早期発見し、その発生又はこれらによる被害の拡大を防止すること及び被害者の保護を目的に、教職員が安心して通報・相談をすることができる体制として、外部・内部に相談窓口を設置しております。

●公益通報とは

職場で行われていた法令違反行為（又はまさに生じようとしている場合）を知った場合、不正の利益を得る目的や他人に損害を加える目的などではなく通報すること

●利益相反とは

ある行為によって、一方の利益になると同時に、他方への不利益になる行為のこと

●ハラスメントとは

広義としては「人に対する嫌がらせ」を意味します。その種類は様々ですが、他者に対する発言・行動等が本人の意図には関係なく、相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えたり、脅威を与えること

【通報者・相談者の保護】

通報・相談者の名前は秘匿され、不利益な取扱い等を受けないよう保護されます。

— 通報・報告制度一覧 —

相談窓口	通報・連絡手段					掲載冊子
	来訪	郵送投書	電話	メール	Web	
公益通報	【外部】 本学契約弁護士事務所		○		○	①教員・医師ハンドブック ②新入職員研修の手引 ③研究費使用ガイド
	大学監査室	○	○	○	○	
	グリーンボックス		○			
研究関連	<意見・提案> 学長				○	①研究費使用ガイド
	<通報・相談> 大学監査室	○	○	○	○	
	<利益相反> 利益相反管理委員会	○		○		
ハラスメント 労務関連	【外部】 株式会社保健同人社			○		①教員・医師ハンドブック ②ハラスメント防止ハンドブック
	人事課 各機関管理課人事係	○		○	○	
メンタルヘルス	【外部】 株式会社保健同人社			○	○	③新入職員研修の手引
	学生相談室				○	

※上記の通報・相談窓口の詳細はイントラネットにも掲載しておりますので、ご確認ください。
なお、イントラネットは学内ネットワークからのみのアクセスとなります。
イントラネットURL：http://j-net.jikei.ac.jp/

創立百三十年記念事業募金

BULLETIN BOARD

寄付者名簿

同窓生

大野典也
鈴木弘康
高橋紀久雄(☆)
前納博
松田一美
松信堯
松信恵美子

同窓会支部会・クラス会

同窓会中野支部
昭和55年卒業百恵会
慈大二七会

父兄会

岩瀬健
加瀬部強
小関誠一郎
齋藤良一
田澤豪士
林本順子
牧愼司
丸森康平
三平将彦
本橋安浩
森田由里
山口太平
吉井寿昭

教職員

浅野晃司
小川武希
川久保孝
嶋澤順子
根本昌実

企業・一般団体

(株)エスアールエル
三協立山(株)
慈恵ファシリティーサービス(株)
慈恵メディカルサービス(株)
大成建設(株)
日本道路興運(株)
松岡塗料(株)

一般個人

阿部和人
伊藤博
大津輝子
大鷲英樹
清水家康
新藤文子
太刀川あさ子

・平成27年11月1日～平成28年4月30日までに頂いたご寄付
・ご芳名は敬称を省略し、五十音順に掲載しました。
・お名前の後ろの☆印は旧募集期間の募金に加えて、期間延長後にも一定金額以上の募金をしていただいた方です。

創立百三十年記念事業募金の御礼と ご協力のお願い

学祖・高木兼寛先生は明治14年5月1日(1881)に、東京慈恵会医科大学の前身である成医会講習所を開設しました。成医会講習所開設以来130余年の間、質の高い医療人を育成し、医療を通して社会に貢献するとともに、医療を支える研究の振興に努めてまいりました。

この間、医療は高度・専門化し、それに対応する専門医を育成するとともに、一方では総合的診療能力を備えた医師の育成が求められています。本学の使命を果たすためには、教育・研究施設の改善・充実に回り、附属病院の施設整備を行うことが喫緊の課題です。

本学は大学の教育研究施設の他に4附属病院を有しており、長・中期計画を立ててこれらの施設の整備を行っています。

これまで、平成12年(2000)には本院中央棟を、平成14年(2002)には大学1号館を完成させました。更に、平成24年(2012)には東京慈恵会医科大学葛飾医療センターを開院し順調に運営されています。

また、本院外来棟は開設以来50年を超え、病院の老朽化が進み手狭になっています。中央棟に隣接して外来棟を建て、患者さんの利便性を図るとともに、東京都から借用した隣地を活用して、病院と大学の建物を整理し、機能的なキャンパスに整備する建築計画が今年2月に着工されました。今後、順次、国領キャンパス、第三病院の整備を計画しています。これらの基盤整備には莫大な資金が必要となり、大学も自助努力を重ねておりますが、資金の調達には限界があります。

本学の将来計画と学祖の建学の精神にご賛同賜り、これまで関係各方面から心温まるご支援をいただきました。ご協力賜りました方々の温かいご芳志に厚くお礼申し上げます。我々の使命を果たすためにさらに一層の努力をしてまいりますので、今後とも関係各位の全面的なご協力を心よりお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏



編集後記

第8代学長を務められた阿部正和先生が、平成28年2月26日にお亡くなりになりました。学生時代から不世出の秀才との誉れ高く、附属病院長、学長、理事長を歴任され、学長時代には日本初の医学部看護学科を創設されました。本学は学祖を初め阿部先生のような多くの立派な先達たちの偉業に支えられて今日に至っています。こうした伝統を引き継ぎ、日本の臨床医学の進歩に貢献することこそ慈恵医大の使命です。本誌ではこれからも変わりつつある本学の姿をお伝えしていきます。より役立つ法人誌にするために、是非、本誌をご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

大学広報委員会委員長 穎川 晋

The JIKEI

2016 Summer Vol.27

発行	学校法人 慈恵大学
発行人	理事長 栗原 敏
連絡先	〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8 学校法人 慈恵大学 広報課
電話	03-3433-1111(大代表)
F A X	03-5400-1281
e-mail	koho@jikei.ac.jp
号数	第27号
発行日	2016年8月1日

<http://www.jikei.ac.jp/>

